

アジアの友

The Asia-no Tomo

No. 542

< 留学生教育学会 >

新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査

日本で学ぶ外国人留学生

大阪大学国際教育交流センター教授 留学生教育学会会長
近藤佐知彦教授に聞く「コロナ禍の留学生交流事業」



謝安亮（左四）與謝鴻海（右二）的見證下，修交口譯師與我國僑學單位。

なおマレーシアではマスクは輸出禁止品目の一つであるため、日本支部（JJB(PB)）の役員会チーム（Executive Committee）は在日マレーシア大使館と協力してマスクを一括調達し、再梱包して日本の全ての寄贈先に配布しました。

アジアの友

2020年4-6月号 第542号

目次

	特集 新型コロナウイルスと留学生
	＜留学生教育学会＞
2	新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査 日本で学ぶ外国人留学生
7	大阪大学国際教育交流センター教授 留学生教育学会会長 近藤佐知彦教授に聞く「コロナ禍の留学生交流事業」
12	【緊急アピール】 新型コロナウイルス禍中における留学生をはじめとする外国人ケアについて
14	新型コロナウイルス発生 当協会における対応と留学生のための助成等の支援情報
15	「留学生寮における 新型コロナ対応ドキュメント」 水須善幸
26	「コロナ禍で変わる日本語教育現場 ～B.C.時代から A.C.時代へ」 山田健一
30	「新型コロナウイルス感染症に関する 外国人留学生を対象とする支援制度について」 福島正浩
36	留学生の就活 オンライン合同企業説明会 開催される
40	私の意見私の体験 ムンフトール プレブスレン ～モンゴル
44	コラム 泰日工業大学奮闘記
48	③⑥「卒業生タンヤマイさんの日本留学」 水谷光一
	知友会通信 & MEMBERS

＜表紙＞ モンゴル・ゴビ砂漠の夜 by Chris Sia

< 留学生教育学会 >

新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査

日本で学ぶ外国人留学生

大阪大学国際教育交流センター 教授 近藤佐知彦 准教授 石倉佑季子

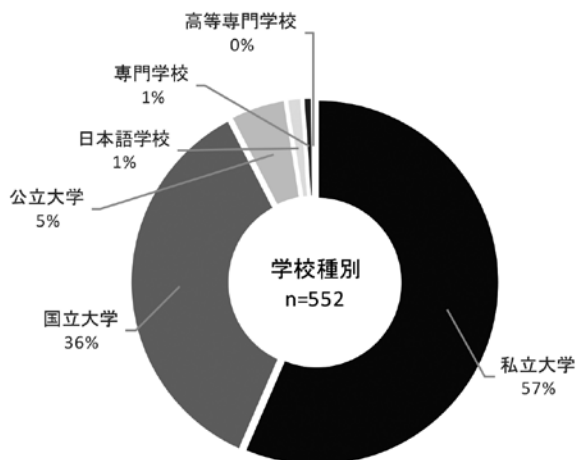
日本の留学交流におけるこの間のウィルス禍による影響について、留学生教育学会は会長の近藤佐知彦大阪大学国際センター教授を中心に「新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査」と題した緊急アンケートを実施した。2020年4月20日からインターネット上で配信された調査は、1. 留学生受入に関わっている教職員向け 2. 日本人学生等の海外派遣に関わっている教職員向け 3. 日本で学ぶ外国人留学生向け（日本の学校に在籍しているが、入国できない留学生も

含む）4. 留学前・留学中（帰国直後）の日本人学生向けの4種類用意された。同学会ホームページ（<https://jaise.org>）には5月7日付で協力者へのお礼と、中間報告が掲載されている。さらに詳細な分析や記述データなどは最終報告書にまとめられることとなろう。

ここに、データクリーニング済みの最終調査資料をご提供いただいた近藤佐知彦教授、石倉佑季子大阪大学国際教育交流センター准教授に心より御礼申し上げたい。

(編集部)

1) Q6 アンケート回答者の在籍学校種別



回答者の在籍学校種別	
種別	回答者数
私立大学	312
国立大学	198
公立大学	28
日本語学校	8
専門学校	5
高等専門学校	1
合計	552

2) Q8 回答者出身国

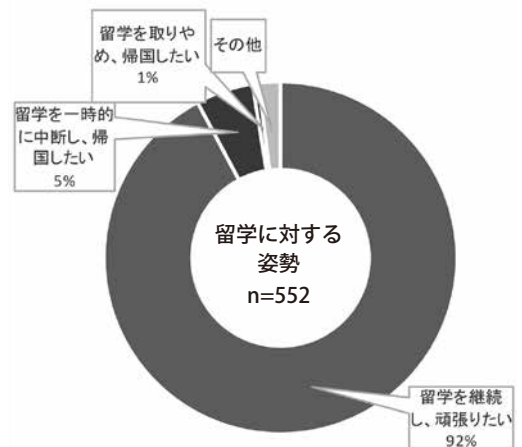
No.	国・地域	回答者数	割合
1	中国	280	50.7%
2	インドネシア	34	6.2%
3	韓国	31	5.6%
4	ベトナム	29	5.3%
5	バングラデシュ	15	2.7%
6	ミャンマー	14	2.5%
7	モンゴル	14	2.5%
8	マレーシア	12	2.2%
9	台湾	11	2.0%
10	フィリピン	8	1.4%
11	ウズベキスタン	7	1.3%
12	インド	7	1.3%
13	ドイツ	6	1.1%
14	アメリカ合衆国	6	1.1%
15	香港	6	1.1%
16	フランス	5	0.9%
17	スリランカ	5	0.9%
18	ロシア	5	0.9%
19	タイ	4	0.7%
20	ブラジル	4	0.7%
21	ラオス	4	0.7%
22	ネパール	3	0.5%
23	キルギス	3	0.5%
24	カンボジア	2	0.4%
25	スペイン	2	0.4%
26	シンガポール	2	0.4%
27	オーストラリア	2	0.4%

No.	国・地域	回答者数	割合
28	ブルガリア	2	0.4%
29	ザンビア	2	0.4%
30	キューバ	2	0.4%
31	カザフスタン	2	0.4%
32	イラン	2	0.4%
33	カナダ	1	0.2%
34	パキスタン	1	0.2%
35	モーリシャス	1	0.2%
36	マリ	1	0.2%
37	マダガスカル	1	0.2%
38	ポーランド	1	0.2%
39	ブルンジ	1	0.2%
40	ブルキナファソ	1	0.2%
41	フィンランド	1	0.2%
42	ハンガリー	1	0.2%
43	ニジェール	1	0.2%
44	ニカラグア	1	0.2%
45	チュニジア	1	0.2%
46	タジキスタン	1	0.2%
47	ソロモン諸島	1	0.2%
48	シリア	1	0.2%
49	オーストリア	1	0.2%
50	エスワティニ	1	0.2%
51	ウクライナ	1	0.2%
52	アイルランド	1	0.2%
	空白	1	0.2%
	合計	552	100.0%

3) Q9 留学に対する姿勢

92%の留学生在が留学を継続し頑張りたいと回答している。その他の回答としては、「母国に帰りオンラインの授業を受けたい」（関東・私立大・東アジア・女子）「一時的に休学したい」（関東・私立大・東アジア・男子）という声もあった。

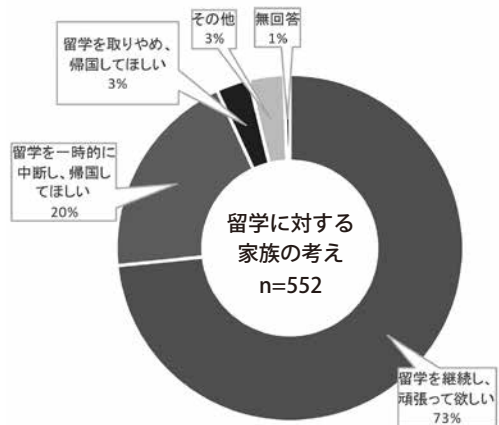
留学に対する姿勢	
項目	回答者数
留学を継続し、頑張りたい	509
留学を一時的に中断し、帰国したい	29
留学を取りやめ、帰国したい	3
その他	11
合計	552



4) Q10 留学に対する家族の考え

およそ7割の留學生の家族は、留学を継続し頑張ってもらいたいと思っている。しかしながら、留学を取りやめ帰国して欲しいと考えているという回答が2割ほどあった。またその他の回答としては、「現状が悪化したら帰国して欲しい」（東北・国立大・中国・女子）「家族が非常に心配してはいるが、どういう決断をしたら良いのかわからない」（中部・国立大・大洋州・女子）「留学よりも自分の安全のことを考えて欲しい」（関東・私立大・東南アジア・男性）というような家族が学生のみを按じる声や「今後の留学のことは本人の意思に任せる」（中部・公立大・アフリカ中近東・女子）という留學生自身に結論を委ねているケースもある。

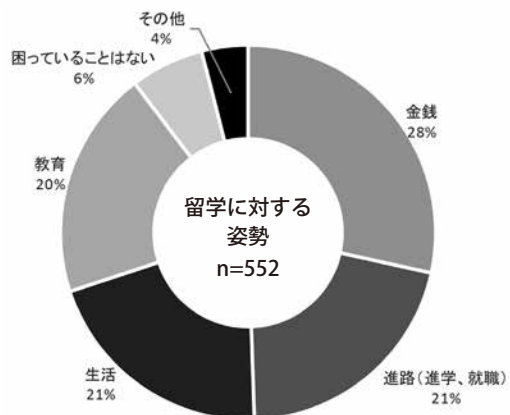
留学に対する家族の考え	
項目	回答者数
留学を継続し、頑張ってもらいたい	405
留学を一時的に中断し、帰国して欲しい	109
留学を取りやめ、帰国して欲しい	17
その他	18
無回答	3
合計	552



5) Q11 一番困っていること

様々な学生の声が寄せられている。以下は代表的なもの。

一番困っていること	
項目	回答者数
金銭	157
進路（進学、就職）	116
生活	113
教育	109
困っていることはない	35
その他	22
合計	552



① 金銭的な問題

金銭的な問題を抱えている留学生の声が最も多く寄せられている。アルバイトがなくなり、家賃、生活費、学費をどうまかなえば良いのかが分からず困っているという声が多かった。特に家で時間が増えているため、生活費がかさんでいるようである。短期的であれば、なんとか生活ができる状態ではあるが、長期的に続いた場合、生活すること自体が難しいそうだ。現在、「光熱費が支払えない」(関西・国立大・欧米・男子)、「1日1食しか食べられない」(関西・私立大・中国・女子)という留学生もいる。

② 健康・精神面での問題

家にずっと居るため、孤独、不安、憂鬱な感情が常にあるという声も多く寄せられている。日本には頼れる人がいないため、万が一新型コロナウイルスに感染したら、具合が悪くなったら、どう対応したら良いのか不安を訴えている留学生が多くいる。メンタルヘルスに関しては真剣に考える必要がある。中には「基礎疾患があるため、新型コロナウイルスに感染したらどうしたら良いのかわからない」(東北・私立大・東アジア・男子)という声もあった。

③ 学習面での問題

オンライン授業になり、家で学習が効率よくできない、対面授業と比べると教育の質が劣るという声もあった。その他、「大学に行くことができず図書館を利用することができないため、研究に必要な資料や文献を収集することができない」(関東・私

立大・東アジア・男子)(中部・私立大・中国・女子)という声も上がっている。

④ 先が見えないことに対する不安

現在の社会状況がどれくらいの期間続くのかわからず、予定通り卒業ができるのか、就職・進学ができるのかという先が見えないことに対する不安の声が多くあった。また、卒業が遅れた場合、奨学金支給期間が終了してしまうのではないかと(東北・私立大・中国・男子)、就職ができなかった場合は、在留資格が切れてしまうのではないかと(関西・国立大・中国・男子)という様々な不安の声があった。留学生に限ったことではないが、ビザの問題が絡むだけに、留学生はより深刻化しやすい。

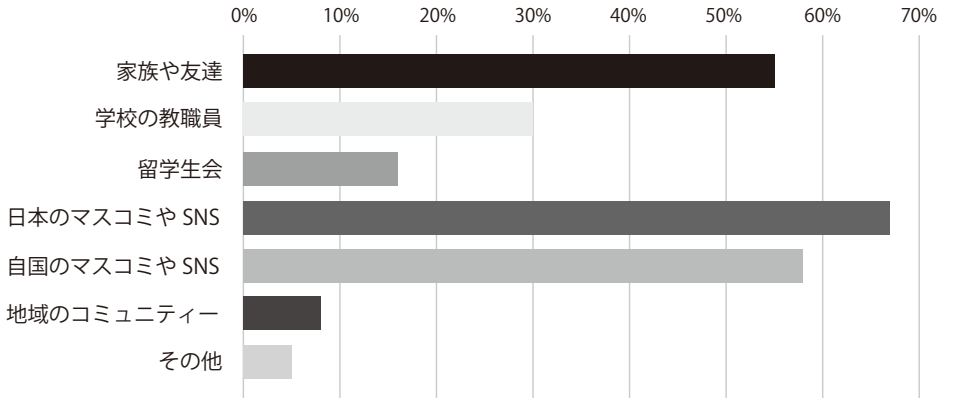
⑤ 日本にいるのに何もできないことに対するフラストレーション

日本に来たら日本の言語・文化に触れることができると思っていたが、家から出ることができず、体験を逸することにフラストレーションを感じている。

6) Q15 新型コロナウイルスに関する情報源

新型コロナウイルスの情報源は、日本のマスメディアやSNS(65%)、母国のマスメディアやSNS(56%)、家族や友達(44%)、通っている学校や教職員(30%)という順番で回答が多かった。日本や母国のリソースだけではなく、その他の海外の情報を頼

新型コロナウイルスに関する情報源 n=552							
	家族や友達	学校の教職員	留学生会	日本のマスコミやSNS	自国のマスコミやSNS	地域のコミュニティ	その他
回答数	249	166	89	364	316	44	28
割合	45%	30%	16%	66%	57%	8%	5%



りにしたり、YouTube や WHO のウェブサイトも参考にしている学生もいる。

7) Q16 外国人留学生在が政府や学校に期待する支援

以下の通り、留学生から様々な声が寄せられている。

① 金銭的な支援

金銭的な支援を求める声、特に学費の減額もしくは免除を求める声が寄せられている。学校の施設を利用していないためその分減額して欲しいというのが主な理由である。また奨学金給付期間の延長を求める声（関西・専門学校・東南アジア・女子）、アルバイトが可能になった時に週 28 時間の制限を撤廃して欲しいと求める声（関東・私立大・中国・女子）、家賃や光熱費をアルバイトができるようになってから支払えるような制

度を導入して欲しい（中部・国立・東南アジア・男子）という声など、経済面への配慮を求める多様な声が寄せられている。

② 英語での情報提供

英語での定期的かつ最新の情報提供を求める声が多くあった。特に、ローカル情報は英語で情報提供されていない傾向にあり、地方で学ぶ留学生に情報が行き届いていない事が窺われる。「英語や母国語での日本の、住んでいる地域の情報が欲しい」（中部・国立大・東アジア・男子）という声や「外国人専用の相談窓口を設けて欲しい」という声（関東・私立大・中国・男子）があった。また、学校の授業に対する方針がなかなか固まらず、オンラインの授業を提供するという情報が遅く混乱したという留学生の声もあった（中部・国立大・中国・男子）。迅速かつ最新の情報が留学生に伝わるよう、政府や学校は対応する必要がある。

③ 学習における支援

授業がオンライン化しているため、その支援を求める声がある。授業オンライン化に伴い、自宅での学習時間が増え課題や読み物が増えている傾向にある。そのため、学生がきちんと学べるよう十分な時間を与えて欲しい、課題の締め切りを延ばして欲しいという声がある。たぶん対面であれば比較的簡単に理解できるような内容であっても、メディアを通すとわかりにくいことがあるようだ。また、今後このような状態が長期化されることを考慮し、資料や本のpdf化、オンライン化、本の貸し出しの郵送サービスの提供など、様々な要望が留学生から出ている。

④ 精神面での支援

留学生が家で孤立してしまっている傾向にあり、住んでいる地域のコミュニティとの交流を深めたいという声、大学に精神面でのサポートを求める声（中部・国立大・中国・男子）が上がっている。

⑤ 新型コロナウイルスの感染を防ぐための物資の提供

マスクや消毒液が品薄でなかなか手に入りにくい状態であるが、新型コロナウイルス感染を防ぐための物資の提供を求める声が多くある。

文責：石倉佑季子 近藤佐知彦

緊急インタビュー

大阪大学国際教育交流センター 教授 留学生教育学会 会長

近藤佐知彦教授に聞く「コロナ禍の留学生交流事業」

3月に緊急アピール「新型コロナウイルス禍中における留学生をはじめとする外国人ケアについて」（P12参照）を発表され、今回のアンケートの取りまとめを行われた近藤佐知彦教授（留学生教育学会会長、大阪大学国際教育センター教授）に、アンケート実施の経緯やコロナ禍における留学生交流についてうかがった。（インタビュー6月3日）



—— 留学生教育学会による3月6日の緊急アピール「新型コロナウイルス禍中における留学生をはじめとする外国人ケアについて」は、その対象を留学生に限定せず外国人市民の方々にも広げたものになっています。

す。どのような問題意識を持って今回の提案を出されたのでしょうか。

我々の仕事というのは海外から留学生に来てもらうこと、あるいは日本人留学生を

海外に送り出すことで、平和産業であるわけです。そうした中で今回留学生に限らなかったのは、もともとの国際交流全般が担保されていてこそその留学生ですから、留学生はもちろん、日本で働き暮らす全ての外国人の方が将来日本に戻って来てくれるかどうか、ということが重要だと考えました。日本は、もう彼らの力無しにはやっていけないことははっきりしていますから、我々がきちんと彼らを仲間として受入れて、適切なケアを与えていく。それが将来彼らに日本に戻って来てもらうための最低限の条件ではないかと考えました。日本人に対するケアと共に外国人市民に対するケアもして欲しい。その中でも留学生というのは居場所が大きく奪われてしまい、情報弱者になったまま放って置かれています。そうした彼らの現状に目を向けてもらいたいと思いこの提言を出しました。

——では今回、アンケート調査を行うに至ったいきさつを教えてください。

私自身の仕事のかなりの部分が短期留学生の受入れで、同業の方の中には「仕事が無くなったので将来的なプログラムの基礎作りをしています」と言う方もいると思いますが、反発を覚悟して言えば、例えば全日空のCAの方々はいま防護服を縫っているわけで、そこに従事する仕事がなければ関連する仕事を見つけて、それが将来的に本来の業務に繋がることであれば、積極的にやっていくべきだと思っています。

つまり大阪大学という大きな大学であれ

ば、予算があって前年度から人材が確保されているわけですが、サマースクールを行うにしても留学生が来ませんから出来ないわけです。ですから、予算の目的外使用のようなところはありますが、その方々にきちんと調査活動をしていただいて結果を出し、世の中に還元して行く。それを大学として独占しようという思いはなく、たまたま私は留学生教育学会という組織に籍を置いていますから、そこであれば全国調査ができる。その調査に私たちの人材を活用しようという仕組みでやってきたのがこれまでの流れになります。

——速報値でいただいた中で印象的だったのは、回答した学生数538のほとんど、90%以上が留学を継続したいということでした。親御さんも70%以上が継続して欲しいというご意向を持っている。これは日本の新型コロナ対応に対する信頼度が現れたのかなと思うのですが。

そうですね。ただ凄いと思ったのは、アンケートのかなりの部分が4月中に回答されたものということです。4月というのは日本のPCR検査数の少なさから、死者は少ないけれどデータが操作されているのではないかと指摘が相次いだ時だったわけです。しかし、それだけの親御さんが日本に残っていたほうが良いという判断をされていたということで、そこは非常に心強いと思います。そして5月の中盤以降になってくると、世界からも日本に対する

高評価が出てくるのですが、そこに至るまでの間で、帰国するより日本にいたほうが良いと学生自身が思っていたというのは、日本に対する信頼の表れなのかなと解釈したいと思います。

—— 一方で、この状況下で四分の一の留学生在が経済的に困っているということです。

本国の親御さんが苦しくなっているという声は多かったですね。その点についてはある意味どうしようもないのですが、日本が生活支援について留学ビザを持っている人に対して日本人と分け隔てなく10万円(特別定額給付金)を給付するとしたこと、そこを差別しなかったのは良かったなと本当に思いますし、留学生に日本に対する良い印象を持ってもらえる政策だったと思います。

一方で学生支援緊急給付金については、「学びの継続のため」ということで、学校の裁量で上位3割までとなっています。上位かどうかは別として予算として3割しか出していないんだろうと思いますが、そういうやり方は学校にとってもかなりプレッシャーがかかりますし、学生にとっても納得のいくものではないと思いますので、私は首をひねらざるを得ません。

—— 最終的には各学校に任せられたわけですが、選考基準のようなものを文科省が示そうとしたわけですね。

GPAが3を満点として、2.3を基準と

するのも一つの案ですと各学校には伝えてあるわけです。ですから成績で決めるとすると上位3割と言うことになるんでしょうね。そこのところでの辻褄は合っているのですが、成績優秀ですでに学費減免を受けている学生に対して、10万円あげるというのはちょっと矛盾しています。授業料をアルバイトで賄っている学生をサポートするためのお金のはずなのに、そこの矛盾が気になっています。

—— では、今後の留学生事業はどのようになっているのでしょうか。

これから先どうなっていくのかは、一言で言うと「誰も分からない」としか言いようが無いと思います。個人的にすごく興味があって、今回アンケートをとってみようと思った一つの目的は、いくつかの大学には海外留学を前提としたコースというのがあるわけですが、そういったコースでは留学しないと修了できない仕組みを作っているわけで、海外留学できなければ修了させないのか、という問題が一つ出てきます。それからダブルディグリーとかジョイントディグリーのプログラムについても、実際に渡航前提で当たり前のように作っていたものが、できなくなった時にどうなるのか、どう変わって行くのかというのは凄く興味がありますし、自分たちの仕事の根幹に関することだと思っています。

授業がどう変わっていくかは、今の趨勢で言うとオンラインで置き換えられるところは置き換えるということなのでしょう

が、今までオンラインでやることに意味をあまり見いだしていなかった、実際に現地に行くことが大事だと言い続けてきた人たちは、「それでいいの?」という、根本的な疑問が生じています。

大学が形骸化している中で、今回やってみたら全てオンラインでもできたじゃないか、みたいな話になっているわけで、もちろん今は緊急避難だから私もそうしなければいけないとは思いますが。いくつかの大学からはこの1、2年をどうするか、真剣に考えなければならないというお返事をいただいています。

——— オンラインがメインということになると、キャンパスの概念が変わってきますね。

これまでは形骸化した大学のシステムに対して、それを何とかしないといけないという思いにも同意していたのですが、その一方で形骸化しているそのシステムの中に入るとけっこう自由だったんです。それがどんどんオンラインになって、私が授業で喋っていることなども、おそらくですが、見ようと思えばどこかで見れるようになる。そしてサイバースパトロールとかAIとかがずっと監視しているようになると、授業の思想状況のようなものまで晒されてしまうかもしれないという覚悟をしなければいけません。これまでは教室の中に入り、ある一定の形式を踏めば、学問の自由というのは、他の人は踏み込んで来ないと言う前提の下に行われていたわけです。ですから、大学でやっていることが外のプラット

フォームを使わないと出来なくなった今の状況はとても危険だと言うこともできます。

今は、様々な大学の人間が外部の大きなプラットフォームに乗っているだけの状態なので、そのプラットフォームを支配している者が学びを支配してしまう可能性があり、統制をかけてくる可能性も考えられます。

国際教育に関してもバーチャルモビリティというのはフィジカルモビリティに比べてパブリックなものですから、そこで何が教育されているのかが見えやすくなる。そしてプラットフォームをコントロールしている人間が、教師と学生というパーソナルな関係を超越したところで、内容を始めいろいろなことに介入してくる可能性もあるわけですね。

——— では、教育機関、教育者はどのように対処するべきなのでしょう。

学びをプラットフォームに全部渡さないという、それを各教育機関が教育者としてある意味社会的常識にしなければだめだと思います。そうでなければ、例えば日本全国に英文学科の教員が5千人いたとしたら5百人くらいで十分という世の中が来てしまいます。全員がプラットフォームの上に乗って、その優劣もどこかで判定できるということになれば、すぐにそういう時代が来ます。自分たちの仕事を守ることが良いのかは別として、仕事も守れない、学生の学びも守れない。大上段に振りかぶって言えば、学問の自由や多様性を守れ

ないということになります。

形骸化しているものを全部取り払うといういろいろなところからアクセスができる。それはその通りなのですが、その形骸のおかげで、隅っこのほうで生き残っていた多様性というものが、オープンなプラットフォームの中で全部を等価で並べられてしまうと、生き残れなくなってしまうものがたくさん出てくる。結果、将来の発展、社会をある程度多様化して行くための一つの重要な種子になるものを失っていくことになるのではないかと、素朴な危機感を持っています。

——— オンライン礼賛の中ですが、そうした危険性があるということを常に意識しながら、利用して行く必要があるということですね。

ですからそこをどのように理論付けて行くのか。みなさんの経験とか、思いとか、気づきを集めていかないことにはそういった流れには対向できないと思っています。留学生教育学会というのは日本語教育から大学院関係者までいろいろな方が集まっているので、いろいろな声を集めやすいというところはあります。

——— 最後に、先生個人が予想されるこれからの大学教育、留学生交流について教えてくださいいただけますか。

これからどうなっていくかということを考えて時に、個人の希望としては越境して

行くというニーズは絶対に無くならないと思います。では絶対に無くならないとしてどう変わって行くのかというと、一部がオンライン化する。例えば大学院選びの場合、一つのあり方としては、バーチャルで何度か先生方とお見合いをして一番相性が良かった先生のところに行く、というような使い方がありますね。そうするとバーチャル上のプレゼンが一番上手な先生のところに学生が集まるという問題があるかもしれませんが、そういう方向に行くのではないかと思います。

今までだったら出版された本を見て、有名な先生だからということで選んでいたものが、これから先は実際に先生のもとに行く前にオンライン上のミーティングをいくつか通す。だけど機微に触れる話についてはオンラインでは出来ませんから実際に学校に来てもらう。研究留学であればそういう流れも出てくると思いますし、短期の交換留学プログラムであれば、半年間はオンラインのコースを受けて、残りの半年間は実際に来てインターンシップを行うといったように、学びと実践をきっちり切り分けるプログラムも出てくるのではないかと思います。

ですから日本語教育で言えば文法部分はオンラインで行い、上級になっていくにしたがって日本に来る期間が必要になる、といったところが現実的なところではないでしょうか。

——— 本日は貴重なご意見をお聞かせいただき、ありがとうございました。

【緊急アピール】

新型ウィルス禍中においての
留学生をはじめとする外国人ケアについて

留学生教育学会（JAISE）2020年3月6日発表

現在、未知のウィルスへの恐怖によって私たちは不安をかき立てられています。3月1日付で米国CDC（疾病対策センター）は高等教育機関が「学生交流の延期もしくは中止を検討しなければならない」との勧告を出しました。私たち留学生教育学会では、これまで学会メンバーが関わってきた留学生交流にも悪影響が出るのは避けられないと覚悟をしています。

目を日本社会に転じると、小中学校などの休校閉鎖が要請されました。児童生徒の「まなび」や「居場所」の確保が問題となり、またマスク不足や、一部生活物資の買い占め騒動など、人々の生活に大きな影響が出ています。事態終熄のために強力な施策が打たれている状況は理解しつつも、株価低迷に表れているように、ウィルスの見えない脅威によって市中の経済活動は大幅に減速し、非正規労働者など弱い立場の方々の生活が脅かされる懸念も出てきました。

そして我々が忘れてならないのは、本邦には約283万人もの外国人住民が生活している事実です。なかには特別永住者や家族滞在など、家族や親族と支え合いながら日本で生活している外国人もいるでしょう。

しかし、36.8万人の技能実習生や33.7万人の留学生の大部分が単身者であり日本社会での生活基盤が脆弱なニューカマーです（令和元年6月末現在における在留外国人数について；出入国在留管理庁調べ）。

非正規労働者については、労働組合などいくつかの組織がサポートに立ち上がりました。政府も休業補償などの対策に迅速に取り組もうとしています。それに加え、私たち留学生教育学会は外国人住民にも目を配るべきであると訴えます。これらの人々は生活基盤だけでなく言語などの文化基盤も十分とは言えない社会的弱者であることが多いからです。コミュニケーションギャップから正確な情報が与えられず、危機的な状況で社会からますます孤立していきかねない方々のことを私たちは忘れてはいけません。

仮に入学した学校が、適切な処置がないままに長期の休校や閉校となるような「留学生」が出た場合、彼らは制度的に留学生と見做されることなく、日本社会に居場所も与えられずに国外への退去を求められる立場に陥ってしまいます。技能実習生の実習先の経営もどのように変化するか楽観出来ません。若者達はそれぞれに努力をし、

また少なからぬ自己投資をして来日しています。それぞれの夢を実現させるために日本を選んでいきます。私たちが無策なままでは、彼らの責に帰さない理由で、明るい夢を悪夢に変えてしまいかねません。

例えば外国人留学生などニューカマーの多くが自分だけでは日本メディアからの情報を十分に消化できていません。「学校」のような社会との接点がなくなると、彼らにとっては学習機会が奪われるだけでなく、情報ソースとなる友人や信頼できる先生と顔を合わせる場も失われます。情報源が本国メディア（SNS など）や母語情報に限られてしまうと、自然と情報が偏り、周囲の日本人社会に溶け込めなくなる可能性もあります。ただでさえ不安な状況です。自分たちの周辺で何が起きているのか、生活者として日本に暮らす人々一般に何が期待されているのか、迅速に的確にそして友好的な方法で伝えられる必要があります。

日本で自己実現を目指してチャレンジしてきた若者達の夢をできる限りサポートしていくために、またホストコミュニティである私たちの社会が、他者に寛容で柔軟性を備えた真の共生社会へと脱皮するためにも、以下の提案をいたします。

① 外国人住民を弱者にしないため、疾病・医療情報などを含めた外国人向けの適切な情報発信を工夫しませんか。学校、行政、ボランティアそして専門家など様々な関係者の力を集めたプラットフォームが必要です。

② 社会との適切な接点を保持するため、日本語学校やボランティアによる教室などの維持も考慮して下さい。居場所がなくなった「外国人留学生」「外国人単身者」「外国人所帯」は社会から孤立してしまいます。

③ 在留資格を含めた国の制度の柔軟な運用を考えて下さい。緊急事態だから異分子を追いつめ、という方向では未来志向の多文化共生社会は築けません。緊急事態であればこそ、他者が直面するニーズに配慮しつつ、例えば「通うべき学校を奪われた留学生」「職場が危ない実習生」等を救済する方向性を考えましょう。いま我々の寛容性が試されています。

④ 様々な予算の再配分を含めた資源の最適化を考えませんか。冒頭で掲げたCDC勧告から類推できるように、来年度の留学交流などは「奨学金を投じれば活発になる」ものではありません。ここ数ヶ月から今年いっぱい留学交流は規模縮小の方向にむかわざるを得ません。例えば既に配分された予算の一部を使って「現在日本に在留している外国人の若者達」に対し、上記①②③のような施策を実現できないでしょうか。

留学生教育学会ではみなさんが「自分たちのことで精一杯」であることは承知しつつも、いまこそがマイノリティの痛みも分かち合うことが出来る共生社会に脱皮するための正念場であるとも信じて、上記の様な提案をいたします。

以上

【留学生教育学会ホームページより転載】

URL: <https://jaise.org>

新型コロナウイルス発生 当協会における対応と留学生のための助成等の支援情報

本来であれば東京で56年ぶり、二度目のオリンピックが開催される輝かしい年となるはずであった2020年。現状を予測できた人は誰一人いなかったのではないだろうか。いま、世界中の人々が中国・武漢で発生したとされる新型コロナウイルス＝COVID-19から、普通の日常を取り戻すために戦っている。そして世界各国がウイルスの流入を防ぐため、お互いに入国規制を設けた結果、留学生およびそこに关わる全ての人の日常は大きく変わってしまった。ここではそうした背景を踏まえ、COVID-19の発生以降、アジア学生文化協会（ABK）がどのような対応をとってきたか、また、留学生が利用できる助成金やサポートにはどのようなものがあるのか、各担当スタッフが紹介する。

COVID-19 発生からこれまでの流れを振り返る

- 2019年12月、中国・湖北省武漢市で原因不明の急性呼吸器疾患が集団発生。武漢在住者から全国に感染が広がる。中国は2020年1月23日から武漢市を都市封鎖するも、春節休暇により多くの中国人が国内外に移動していた。
- 1月15日、日本国内初の感染者が確認される。中国武漢に渡航歴のある中国人。政府は水際対策のため2月1日から湖北省に滞在歴がある外国人の入国拒否を行うと発表する。
- 1月28日、日本人の初感染者が確認される。武漢からのツアー客を乗せていたバス運転手。その後同乗の女性バスガイドの感染も確認される。
- 2月1日、2月3日に横浜港に帰港予定の客船「ダイヤモンドプリンセス号」から香港で下船した乗客が新型コロナウイルスに感染していたことが判明。政府は横浜での乗客の下船を認めず、2週間の隔離措置をとると発表する。しかし船内の感染対策が不十分だったため、2週間に次々と感染者が増加、最終的に712人の感染者、13人の死者を出すこととなる。
- 2月13日、国内で初の死者を確認。中国への渡航歴もなくダイヤモンドプリンセス号とも関係のない感染者が相次ぐ。
- 2月25日、政府はコロナウイルス対策の基本方針を発表。症状が軽い人は自宅療養を原則とするよう要請する。
- 2月26日、北海道の鈴木知事が27日から3月4日まで道内の小中学校を臨時休校にすると発表。同日政府は全国的なスポーツ、文化イベントの中止や延期、規模縮小を主催者に要請する。
- 2月27日、政府は全国の小中学校などを3月2日から春休みまでの間、臨時休校とするよう要請する。
- 3月5日、政府は4月に国賓として来日予定だった中国の習近平国家主席の来日延期を発表。同日3月9日から中国全土と韓国全土からの入国規制を強化することを発表する。その後入国拒否対象国は増加し、5月中旬までに100か国以上の国・地域が対象となる。
- 3月11日、ヨーロッパやアメリカでの感染拡大を受け、世界保健機関（WHO）はCOVID-19による感染拡大をパンデミックと認定する。
- 3月24日、東京五輪の1年程度延期が決定。3月終りから4月中旬にかけて感染者は増加、1日100～200人を超えるまでに急増する。
- 4月7日、政府は東京や神奈川、千葉など7都府県を対象に緊急事態宣言を発令する。その後4月16日に全国に拡大。
- 5月14日、政府は感染者数の減少、医療機関の受入れ体制等を考慮し、まず39県の緊急事態宣言解除を表明。5月25日には東京、神奈川など全ての都道府県の緊急事態宣言が解除される。

留学生寮における 新型コロナ対応ドキュメント

アジア文化会館館長 水須善幸

※本文内に登場するアジア文化会館（or 会館）は（公財）アジア学生文化協会（ABK）が運営するは学生寮と教室（研修室）を備えた施設です。

発生初期

本年1月下旬、横浜で「日本留学生宿舍財団法人協議会」（以下、留団協）の定例会が開催されました。留学生に宿舎を提供している団体が年に4回集まって近況報告や情報交換を行っています。当時、中国の武漢で新型コロナウイルス感染症が流行していることがすでに報道されていましたが、日本ではまだ認識され始めたばかりで、対応方法すらよくわからない状況でした。留団協の各団体も、本格的に対策を始めているところはまだ少なく、マスクの着用、手洗いの励行など、一般的な感染予防の呼びかけを始めようとしている段階でした。この後、ウイルスが世界中で猛威をふるい、甚大な被害をもたらすことになろうとは想像すらできませんでした。

急展開

定例会の翌週、周辺の様子が急速に変わっていきました。まず、ドラッグストアから手指消毒用のアルコールが消えました。インターネットで注文しようとしても、すでに販売中止に。さらに前の週末でたくさん箱積みされていたマスクも売り場から消えました。前兆もなく突然起こったできごとに不安と焦

りを感じ始めました。目に見えない不気味なものが足音をたてて迫ってきていることを肌で感じ始めた瞬間でした。幸い ABK 学生寮担当部署にはマスクの在庫が 800 枚ほどありました。11 年前の新型インフルエンザの時に買ったものです。マスクがあるというだけで護られるような安心感がありました。

コロナウイルスに対する不安や危機感が急速に高まり始めたある日、中国から短期留学の一行を迎えました。深圳の高校生が1月27日から2月5日までアジア文化会館を拠点として活動。当時警戒されていたのは湖北省（特に武漢）だけでしたので、深圳からは問題なく来日できましたが、中国では湖北省以外の地域にも感染が広がっていたので微妙な時期ではありました。実際、高校生たちが電車の中で中国語を話していると、乗客からの冷たい視線を感じたということです。せっかく日本留学を楽しみにして来たのに肩身の狭い思いをさせ気の毒に感じました。

対策へ

ABK 内でも新型コロナウイルス感染症に対する危機感が高まり、2月3日各部署の代表が集まって、最初の対策会議が行われました。

この時点では、湖北省出身の学生がいるかどうか、春節で一時帰国している学生がいるかどうかを確認し、感染地域からのウイルス侵入をいかに防ぐかの水際対策につ

いて検討しました。ABKでは、寮生・スタッフ以外、会館への出入りを禁止する方針を決めました。

中国からの帰国者対応

横浜港に停泊中のクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の様子が連日大きく報道され、感染者数が日に日に増える船内の様子を日本中が固唾をのんで見守っていました。

そんな時、交換留学のため北京に滞在していたはずの大学生が、突然会館に姿を現し、その場に緊張が走りました。中国全土に感染が広がっていることを知っていたからです。幸い、1月中旬に交換留学が終わり、母国に帰って旧正月を過ごしてから日本へ来たということがわかり、一同ホッと胸をなでおろしました。

それから約1週間後、今度は春節で中国に帰省していた学生から連絡が入り、出国できなくなる可能性があるので、予定を早めて日本に帰ることがわかりました。滞在している地域の状況を聞いたところ、隣接する地域を含めて感染者は出ておらず、外出も自粛しているということでしたので、感染の心配はないと思われました。しかし、中国を出国するまでの間に感染するリスクはゼロとは言えず、会館の部屋に戻る前の14日間、他の場所に滞在してもらうことにしました。14日間と決めたのは、新型コロナウイルスの潜伏期間が14日間と言われていたことによります。当時、外国人が日本に上陸する場合も、14日以内に湖北省での滞在歴があれば、特段の事情がない限り上陸拒否となっていました。待機してもらう場所はアジア文化会館内の寮と異なり、部屋の中にトイレ、浴室、キッ

チンが備わっているワンルーム型の寮です。他の寮生と接触する機会を各段に減らすことが可能なのです。夜になって、彼女が会館に帰ってきました。カウンターで手続きを済ませ、そのまま移動してもらいました。中国からの長い移動、感染に対する不安と緊張感で疲れきっていたことでしょう。部屋に入ることなく、大きなスーツケースを持って会館を出ていく後ろ姿を見ると、胸が締め付けられるような思いがしました。

その日から毎日体温と健康状況を記録し報告してもらいましたが、2週間一度も異常が見られることなく、無事に帰館することができました。

なお、一時帰国者を受け入れる際、会館として次の対応をとりました。

1. マスクを着用して対応する。
2. 一時帰国者がマスクを着用しているか確認。着用していない場合は会館のマスクを提供し、速やかに着用させ、手洗い及び手の消毒を行わせる。
3. 体温を測る。(非接触型体温計を使用)
4. 待機場所の鍵、封筒(規則、地図等の資料が入っている)、預かっている郵便物を渡す。
5. 自分の部屋以外のエリアには極力行かないように説明し、必要な荷物を持って移動してもらう。
6. 対応が終わったら、手をよく洗い、消毒する。

そして、待機してもらう学生へは次のお願いをしました。

1. 毎日体温を測り、検測した体温を表に記入してください。発熱があった場合は、

ABKにご連絡ください。

2. 待機期間中、会館の部屋にあるものが必要となった場合は、まずABKに相談してください。平日の日中であれば、ABKの職員が届けることは可能です。
3. 待機期間中は、他人を部屋に入れないようにし、人との接触を極力控えるようにしてください。
4. 最終日に健康チェック票をメールでABKにお送りください。画像でけっこうです。ABKから許可が出てから、会館の部屋に移動してください。

国内での感染拡大

日本で新型コロナウイルスによる初めての死者が確認され、専門家からは、すでにある程度感染が広がっているおそれがあるとの見解が示されました。日増しに高まる警戒感。海外ではSNSなどを通して、日本が危ない段階に入っているとの情報が流れ、留学生の中には、本国の親から至急帰ってくるように言われ、退学、退寮して帰国するという学生が現れ始めました。

この状況を受けて、2月17日理事長により、新型コロナウイルス感染症対策会議が招集されました。会議では、中国での出国制限や日本で感染拡大した場合の影響について話し合われました。

会館では次の課題をあげて検討することになりました。

- ・手の消毒を徹底したいがアルコールが手に入らない。
- ・館内でのマスク着用を徹底したいが、マスクが手に入らない。毎日学生に配ったら在庫が長くもたない。

- ・体調が悪い学生、感染者が出た場合の対処方法。(特に職員不在の夜間、休日)
- ・研修室の外部への貸し出しをどうするか。

感染防止と体調不良者の対応策

2月18日、国内での感染が広がりつつある状況を受け、政府の専門家会議が医療機関の受診の目安を発表。発熱など風邪の症状が4日以上続く場合や、強いだるさ、息苦しさがある場合は、帰国者・接触者相談センターに相談するよう求めました。

ABKでは全寮生へ感染防止に関する下記の連絡をメールで送信。更にポスターを館内にはりだして感染予防を呼びかけました。

<新型コロナウイルス感染予防のために>

新型コロナウイルス(COVID19)の感染が世界で拡大しています。感染予防のため、次の対応につきまして、ご協力をお願いいたします。

■感染予防のために

- ・手洗いを念入りに行いましょう。特に外出から帰ってきた時や調理・食事の前には必ず手を洗いましょう。
- ・手指消毒用のアルコールがある所では、手を消毒しましょう。
- ・咳やくしゃみが出る時は、咳エチケットを心がけましょう。

<各国語版の予防案内>



中国語



英語



日本語

■不特定多数の人との接触を控える

- ・不特定多数の人によってウイルスが持ち込

をしているのか」との声が寄せられました。

ABKでは緊急対策会議を行い、寮で感染者がでた場合の影響を想定し、対応策を検討しました。実際に感染者が出た場合の対応について、保健所に確認したところ、主に次の指導がありました。

- ・37.5度以上の熱が4日以上続く、強いだるさや息苦しさがある場合は、帰国者・接触者電話相談センターに連絡をすること。
- ・風邪や発熱などの軽い症状があり心配な場合は、最寄りの病院に事前に電話をした上で受診し、その際マスクを必ず着用すること。感染が疑われる場合は、受診した病院から保健所に連絡が入り、指定機関で検査を受けることになる。陽性だった場合、軽症は自宅療養。重症の場合は入院となる。
- ・軽症、重症を問わず、保健所では消毒を行わないので、自分で行うこと。
- ・具合が悪い学生が寮内で出た場合、使った場所を特定し、ゴーグル、手袋、マスク着用のうえ、十分換気をして、1日1回以上消毒を行うとともに、トイレや洗面所は可能な限りフロアを分けて使用できるようにしてほしい。
- ・予防としては、手洗い30秒以上もしくは二度洗いをすること。

保健所の指導を受けて、会館のマニュアルを早速改訂しました。

体調不良者の対応始まる

3月に入ると、実際に体調を崩す学生が出るようになりました。

季節の変わり目に体調を崩すのは毎年ある

普通のことですが、今年は体調不良をうったえる学生が1人ですらに緊張が走りました。ある日、マレーシアの学生が咳と倦怠感の症状があると言って、事務所へ相談に来ました。日曜日だったので休日診療している病院を受診。風邪と診断されました。しかし、その学生は就職先を見学するため、前の週に新幹線に乗って地方へ行っていたことがわかりました。移動中に感染する可能性がないとは言えません。翌朝、症状を確認するため本人に連絡をとったところ、すでに日本語学校の授業に出ていることが判明。クラスでの集団感染が心配されたため、授業を休んでもらい、別の寮で待機してもらうことにしました。本人は薬を服用したせいか、熱などの風邪の症状はなくなっていた元氣。授業を休ませるのが申し訳ないほどでした。結局一度も体調を崩すことなく帰館しました。

その後、日本語学校と合同会議を行い、体調が悪い学生が出た場合の連絡体制について確認しました。発熱や咳など風邪の症状がみられる場合は、寮を移動して14日間待機してもらうことを確認。また、症状を記入したチェック票を、各部門の担当者へメールかLINEで送信。これによって、関係部署へ速やかに連絡することが可能となりました。

その後は、体調不良者の報告が続きました。微熱や頭痛など、いずれも軽症ではありましたが。高熱が出た学生が病院でインフルエンザと診断され、みんなでホッとしたこともありましたが。

WHO（世界保健機関）は、新型コロナウイルス感染症が、世界的な大流行になっていることを発表。パンデミックという言葉が世界を駆け巡りました。更に世界的流行の中心

が欧州に移り、感染に対する警戒感がますます強くなりました。

学生たちは事務所の前を通るたび、カウンターに置いてあるアルコールを手には振りかけて熱心に消毒していました。中には顔にまでアルコールを塗る学生も見られました。

会館の入口には昔からアルコールが置いてありましたが、使う人がほとんどいなかたので、気が付くとボトルにほこりがたまっていました。それが今ではアルコールの容器自体が感染予防の象徴になったと言っても過言ではありません。アルコールがなくなることにより、寮生に心理的不安を招かないか危惧されました。もっと買っておくべきだったと後悔しても後の祭り。アルコールが手に入るまでは、今あるものを長く持たせるしかありません。今だから言えることですが、消毒の効果が弱くなるのを承知で、ついに精製水で少しずつ薄めて使い始めることにしました。

ようやくアルコールが手に入ったのは4月18日のことでした。とにかく手洗いは徹底するようにしました。液体ハンドソープも手に入らなくなったので、富士前寮では固形石鹸に切り替えました。SNS上の間違った情報により、トイレットペーパーもしばらく店頭から消えましたが、幸い業者からの入荷は継続されていたので影響を受けずに済みました。当たり前のようにいつでも必要なだけ手に入ったものが、突然手に入らなくなる。備えあることの大切さを実感しました。

一時帰国者、新規来日者の対応

3月に入ると、日本へ入国した学生の対応や、日本からの出国に関する相談が相次ぎました。

主に次のような対応がありました。

- ①韓国に一時帰国していた学生が寮に戻ってきたことがわかりました。しかも感染者が多い大邱からだということです。この件については寮生で協議し、共有物は分けて使用するなどの対応をとりました。
- ②マレーシアに一時帰国中だった学生から連絡が入り、渡航制限がはじまるので急遽今日の便で日本へ戻ることになったとのこと。政府は新型コロナウイルスの水際対策として、中国と韓国からの入国者に対して、「検疫所長の指定する場所で、14日間待機し、国内において公共交通機関を使用しないこと」を要請しました。その後も、世界での感染拡大とともに、対象国を広げていきました。マレーシアはまだ対象国ではなかったのですが、念のため日本の親戚宅に14日間滞在してもらうことにしました。その後ABKでも方針をとりまとめ、新たに入国したすべての学生を対象に、入寮後、14日間の自宅待機を要請することを決め、それぞれの寮について待機場所などを指定しました。トイレやシャワーを共用する寮については、現在居住している学生と新入生が交わらないよう、使用場所を分けるなどの対策を決めました。
- ③アメリカに一時帰国していた学生から、今晩帰るとの連絡が入りました。アメリカでの感染が急拡大。日本政府がアメリカからの入国者に14日間の待機要請を出すことが発表されたため、急いで戻ってくるようになったようです。こちらが用意した部屋で14日間待機してもらい、健康状況に一切問題なく帰館しました。

- ④成田着の飛行機でタイの学生が来日。新規来日者の入寮は今期初めてとなりました。14日間の待機終了後、アジア文化会館に入寮しました。
- ⑤トルコから新入生が来日し、一旦待機場所に入りました。新規で来日した日本語学校生の入寮はこれで2人目。しかしこれが最後となってしまいました。他の留学生は出入国制限により、全員来日することができなかったのです。
- ⑥日本の大学に入学予定の韓国の留学生が入寮しました。公共交通機関を使ってはいけないことになっているので心配しましたが、すでに1か月前に来日して、別の場所に滞在していたことがわかりホッとしました。

入国した学生の対応に追われる一方で、一時帰国したまま日本に戻れなくなったり、帰国しようとしたが帰れなくなって困っているという様々な相談が寄せられるようになりました。

寮の運営体制縮小

3月25日小池東京都知事が緊急の記者会見を開き、週末の不要不急の外出を自粛するよう要請しました。そして「このままの推移が続けば、ロックダウン（都市の封鎖）を招いてしまう」「感染爆発の重大局面だ」と述べ、3つの密を避けて行動するよう要請しました。

ABKでは、学生に外出を控えるよう呼びかけると同時に、都市封鎖で職員が出勤できなくなった場合、どのように寮を管理し、いかに学生を守るかについて話し合いました。

アジア文化会館は1年365日24時間人を配置して、すべての寮の本部としての役割を担っています。病気や事故などのトラブルがあれば、いつでも誰かが対応できる体制になっています。都市封鎖によって管理する人間がいなくなれば、寮生を孤立させかねません。ロックダウンという言葉が重くのしかかってきました。

幸い会館には私を含め、職員2人が徒歩圏内に住んでいます。他にも、交通機関を利用することなく駆付けることが可能な職員をリストアップするなど、緊急時の対応について検討しました。

4月7日に発令された緊急事態宣言は、外出や人の移動を禁止するものではなかったもので、次の通り、人員を縮小した体制を取りました。

1. 事務所の勤務体制

- ・4月8日より、平日日中の勤務体制を4名から2名に縮小。朝8時の開館時間を9時からに変更する。
- ・土日祝日は休館とし、日中の勤務を1名に縮小。緊急連絡先を公開し、緊急時の対応ができるようにする。
- ・夜間はこれまで通り宿直1名の体制を継続する。

2. 感染予防対策

(1) 消毒・換気

- ①清掃業者による消毒、換気
- ②職員による消毒、換気

(2) 掲示やメールによる感染予防対策の周知・徹底（手洗い、外出自粛等）

(3) 寮内の立入制限

- ①居住者以外の立入禁止を継続

②アジア文化会館内への立入制限

- ・居住階に加え、ロビーと地下ホールについても、居住者及び事務所スタッフ以外立入禁止の掲示をする。

(4) 研修室の外部への貸出中止

3. 体調不良者の対応

- ・日本語学校（日本語コース、ABK 学館）と速やかに情報交換を行い、体調不良者を早期に掌握する。
- ・発熱等の症状がある場合は、マニュアルに従い対応を行う。原則として指定した場所で14日間待機させ、経過観察を行いながら対応する。

ついに・・・!?

東京での1日の感染者が100人を超え、ついに累計で1,000人を突破しました。緊急事態宣言が近く出されるという情報が流れる中、アジア文化会館では新たな体調不良者が出ました。

4月6日、日曜日の夜、在館生のAさんが宿直担当者のところへ相談に来ました。そして、発熱、悪寒、喉の痛み、倦怠感などをうったえました。体温をはかったところ39度を超える高熱。新型コロナウイルスの感染が疑われたため、帰国者・接触者電話相談センターに電話したところ、まったくつながらないので救急車を手配。病院に搬送されました。

インフルエンザの検査では陰性。コロナではないだろうということでコロナの検査を受けることなく寮に帰ってきましたが、解熱剤を服用しても熱が下がらず、翌朝も38度以上の熱、喉の痛みと倦怠感が続きました。

協会では緊急会議を行い、対応を協議。感染が疑われる症状があったことから、新

型コロナウイルス感染の可能性があるとの認識で一致。誰もが「いよいよ」との覚悟を決めました。

職員がこの件について保健所に相談したところ、近くの病院を紹介してもらいました。一般外来とは違う入口に入って受診。レントゲンを撮ったところ、肺炎などの症状が見られなかったため、コロナの検査は受けられず、しばらく様子を見ることになりました。その日のうちに寮を移動して14日間の待機に入りました。

更に濃厚接触者がいたこともわかりました。発症当日、マスクをしなくて1時間ほど近距離でおしゃべりをした学生がいたのです。その学生は、何の症状もなく元気でしたが、事情を説明して14日間の待機に協力してもらいました。

翌日Aさんは体温が平熱まで下がり、結局14日間の待機期間が終わるまで一度も発熱することなく、元気に戻ってきました。Aさんは発熱した当初、コロナの検査をしてほしいと何度も訴えていました。Aさんと接触した人も不安を抱えたまま2週間を過ごさなければならず、Aさんは周囲に迷惑をかけて申し訳ないという思いをずっと抱えていました。当事者でなければこの苦しみはわかりません。

「検査さえできれば」

誰もがこの思いでした。希望する人が検査を受けられる体制が一日も早く整うことを切望します。

避難する学生

東京での一日の感染者数が最多を更新し続ける中、東京から避難する学生が現れはじめ

ました。海外では、「東京は危ない」という情報がネットで拡散し、恐怖を感じて、地方の友人や親族のところへ身を寄せる学生が始めたのです。他県への移動は自粛しなければなりません。しかし、もはや誰も止めることはできませんでした。

3・11 東日本大震災の時もそうでしたが、海外のニュースはよりセンセーショナルに伝わります。本国のご家族の心配はさぞかし大きかったことでしょう。ABKでは新型コロナウイルス感染症への対策をホームページに掲載し(↓)、少しでもご家族の皆様に安心していただけるようにしました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、4月7日緊急事態宣言が発令されました。(宣言の効力は5月6日まで。対象は東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡。)

アジア文化会館では、現在次の感染予防策に取り組んでいます。

寮生、ご家族、関係者のみなさまにはご心配をおかけしておりますが、寮生のみなさんの安全のため、今後も徹底して対策に取り組んでまいります。

1. 感染予防対策

(1) 消毒

- ・館内の共用部で人が接触する箇所(テーブル、ドアノブ、スイッチ等)をアルコールで消毒。午前に清掃業者が、午後に職員が行っています。
- ・会館入口のカウンターに消毒用アルコールを置き、手指の消毒を推進。
- ・館内の手洗い場にハンドソープを置いて、

手洗いを励行。

(2) 換気

- ・館内共用部の窓を開放し、換気のよい状態を保つよう注意をはらっています。午前に清掃業者が、午後に職員が巡回し、換気の悪い場所がないか確認しています。

(3) 接触を減らす

- ・寮生または事務所スタッフ以外の入館を禁止し、不特定多数の人の接触を避けるようにしています。
- ・地下ホール、ロビーの椅子を減らして、人が密にならないようにしています。
- ・外出を自粛し、できるだけ部屋で過ごすように呼びかけています。

2. 寮生のサポート

(1) 体調不良者の対応

- ・発熱や風邪のような症状がある学生は、ワンルーム型の部屋に14日間待機させ、毎日体温や健康状況をチェックします。
- ・病院で診察を受け、医師の指導に従い治療します。保健所の指導を受ける場合もあります。

(2) 経済的問題への対応

- ・アルバイトや親からの仕送りがなくなったことなどにより、生活に影響が生じていないかどうか、在学先の日本語学校とも連携して、早期に状況を掌握しサポートします。

3. 事務所の営業時間

緊急事態宣言における出勤者数の削減要請を受けて、アジア文化会館でも4月8日(水)より出勤者を減らし、事務所の営業時間を変更しました。

月～金 9:00～12:30、13:30～19:00

連絡先 03-3946-4121

夜間の緊急連絡先 090-8729-9354

土日祝 休館

緊急連絡先 090-8729-9354

寮生のサポート

不要不急の外出自粛が呼びかけられる中、留学生は学校の授業もアルバイトもなく、部屋で時間を持て余している様子でした。感染防止について1人1人が主体者となって取り組むことができれば、ストレス軽減にもつながるのではないかと。人のために行動することが、かえって自分自身を元気にするのではないかと。そのような発想から企画をたて、寮生全員に募集しました。(↓)

ところがこれがまったくの空振りで、数名の反応があったにとどまりました。

寮生のみなさんへ (4/9)

新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言が発令されました。

この難局を乗り越えるため、みなさんの智慧と力をお借りしたいと思います。

次のいずれかに協力していただける方は、メールでお送りください。

こちらで選んだものは寮に掲示したり、Instagramなどに掲載させていただきます。

ABKと寮生のみなさんで団結して新型コロナウイルスに打ち勝ってまいりましょう!!

【目的】

- ・新型コロナウイルス感染予防の意識向上(手洗い、外出自粛、集会自粛など)

- ・感染に対する不安、長引く自粛によるストレスをやわらげて、みんなを元気にする

【内容】

- ・ポスター、標語、応援メッセージを寮の中に掲示する。または、Instagramに載せる。
- ・使用する言語は何でもOK。
- ・イラストだけでもOK。メッセージだけでもOK。

【NG】

- ・特定の人物、団体、国・地域を誹謗、中傷する内容。
- ・フェイクニュースなど、デマや不正確な情報を元にした内容。

みなさん、どしどしご応募ください!

日本だけでなく、世界で一日も早く感染が終息しますように。

アジア文化会館事務所(水須、森田、酒井)

TEL 03-3946-4121 FAX 03-3946-7599

これまではウイルスの感染防止対策を進めてきましたが、自粛生活が長引く中で、ストレスなどの精神的問題や、アルバイトがなくなったことなどによる経済的問題など、個別のサポートが必要な段階に入っていました。

そこで、インターネットによる緊急アンケートを実施。設問はシンプルに、「新型コロナウイルスの影響で、困っていることがあれば教えてください。」の1問のみ。

最も回答が多かったのは、アルバイトが休みになったので経済的に困っているという学生。次に多かったのが、感染者が増えていることに対する不安や、外出できないことによるストレスを抱えているという問題。また、

オンライン授業を受ける学生が増える中で、インターネット環境に対する不満の声も聞かれました。

あるタイの留学生は、親の仕事がコロナ危機の影響を受けたため、仕送りが止まってしまいました。更にアルバイトも休みになったために一切の収入を断たれ、今後どうやって生活していけばいいのか、先が見えない状態でした。まずは部屋代を節約するため、料金の安い部屋へ移動。更に会館のアルバイトとして採用し、キッチン清掃などの軽作業による収入を生活費の足しにしてもらいました。

その後、緊急事態宣言が解除され、居酒屋でのアルバイトも徐々に再開。

また、住居確保給付金を申請し、審査に通れば、3か月分の家賃給付が期待できます。更に10万円の特別定額給付金の案内も手元に届き、少しずつサポートを受ける機会が得られるようになりましたが、まだ十分ではありません。

日本語学校を卒業した2人のベトナム人留学生。退寮してベトナムに帰国しようとしたところ、ベトナムで入国制限がかかり、帰れなくなってしまいました。2人とも手元に十分なお金を残していませんでした。学校を卒業したのでアルバイトをすることもできません。

幸い1人は親から送金してもらうことができましたが、もう1人はすでに転出手続きを済ませていたため、10万円の特別定額給付金の対象ともならず、友人から借金したり、日本語学校や寮からわずかな支援を受けながら、帰国便に搭乗できる日を今も待ち続けています。

一方、日本語学校の春休みに一時帰国した

ところ、日本に戻れなくなってしまった学生が10人近くにのぼりました。いまだに戻れるめどはたらず、部屋代を考慮してもらえないかと相談してくる学生もいました。日本に戻れないのは学生個人の責任ではありません。ABKで検討した結果、不在中の部屋代は請求しないことにしました。

寮運営への影響

現在、ABKでは、アジア文化会館をはじめ、8つの学生寮を運営しています。

この4月には131人の入寮申込みがありましたが、実際に入寮したのは21人にとどまりました。しかも、そのうち新規に来日できたのはたったの2人。部屋の稼働率は45%にまで落ち込んでいます。

留学生の入国制限が緩和される見通しはいまだ立たず、7月生の来日は絶望的。10月生から来日できるようになることを祈るばかりです。

毎年行っている恒例行事は、いずれも三密になるリスクがあるため、当面中止となりました。4月の新入生歓迎会、6月のお神輿体験、7月の卓球大会、カラオケ大会、毎月行っている留学生会の集まり……。共同生活と交流行事を通じて留学生同士がお互いを理解し



テーブル数を減らしたアジア文化会館のロビー

「学生成績管理システム」-を作成、2019年度にそれらを「iPad 学生情報管理支援システム」として統合、運用を始めた。各システムは、それぞれ管理システムという名称になっているが、学生を管理することより、学生のポートフォリオを蓄え、教職員で同情報を活用、学生の支援（サポート）をすることを旨とする。

この3つのシステムの概要は以下の通りであるが、今後、テレワークが日本語教育現場で本格化することに備え、同システムをテレワークに対応させる計画についても後述する。

「学生出欠管理システム」

（＊QRコードのリンク先は各システムの使用例動画です）



本システムは、iPadとサーバーにより、学生の出欠情報を記録、管理、ステルスWiFi^(注)により他の許可された教職員と情報共有する仕組みとなっている。各教員が授業時、各クラスで、iPadにより学生出欠の入力を行うと、瞬時にサーバーに記録、自動計算され、他の教職員でも同結果を共有できる。また、各教職員は、校内のどこにいても、サーバーに蓄積されている、個別学生の在籍期間中全ての

氏名	出席	欠席	遅刻	早退	欠席理由	備考
田中 太郎	出席	欠席	遅刻	早退		
山田 花子	出席	欠席	遅刻	早退		
佐藤 一郎	出席	欠席	遅刻	早退		
鈴木 美咲	出席	欠席	遅刻	早退		
高橋 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
渡辺 真由	出席	欠席	遅刻	早退		
小林 大輔	出席	欠席	遅刻	早退		
加藤 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山崎 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香	出席	欠席	遅刻	早退		
山本 拓也	出席	欠席	遅刻	早退		
佐々木 千恵	出席	欠席	遅刻	早退		
松本 健一	出席	欠席	遅刻	早退		
中村 美穂	出席	欠席	遅刻	早退		
石川 大志	出席	欠席	遅刻	早退		
山口 花	出席	欠席	遅刻	早退		
清水 健太	出席	欠席	遅刻	早退		
森田 明日香						

閲覧、書き込み、印刷、出力できるようになっている。

また、学生の卒業後は同記録がそのまま卒業生名簿として保存され、学生が当校卒業後、大学や大学院進学後も、引き続き、当該学生の就職活動などのサポートへの活用も計画している。

「学生成績管理システム」



学生の定期試験、日本語能力試験、日本留学試験の成績はもちろん、母国での試験結果、当校で行う小テストやメインテキストの課毎に行う課試験成績や追試成績、クラス内順位等も収められ、担当する教職員が学生の現在、過去の成績状況などが把握できる。また、成績をポートフォリオ化し、出席グラフと同様、出力、送信できる機能がiPadに備えつけられている。これまで、入国管理局では出欠管理の厳格化を日本語教育機関に通達、各機関では学生の出欠管理を厳しくしていると思うが、日本語学校は教育機関であり、学生の出欠管理はもちろんだが、それ以上に、各学生の日本語能力の進捗についても、教職員がいつでも注意を払うことができるようにしておくことが肝要と考える。

学生情報管理システムや学生成績管理シ

ステムでは、学生のプライバシー情報を多く含んでいるため、教職員が各システムを閲覧する際、自分のIDと自分が作成したパスワードでアクセスできるようになっている。また、各教職員がいつどの学生のなんの情報を見たかについて、管理者が把握できるよう、アクセスログを記録、保管する機能をもたせている。このログを見ることで、どの教職員が、いつ、どの学生のどの項目について、情報閲覧をしているかなどを把握、管理できる仕組みとなっている。これまで、紙の学籍簿では、プライバシー情報等の閲覧管理をすることが難しかったが、この仕組みの導入により、情報管理を徹底することができるようになった。

コロナデフォルト時代において、日本語教育現場では、教員は自宅から授業配信、職員はテレワーク、学生も自宅で授業を受けている。このような状況のもとでは、学生の出欠状況はじめ、学生の様子を教職員で共有することが極めて難しくなった。このため、当校では上述のiPad学生情報管理支援システムを、テレワークに対応させるため、VPN (Virtual Private Network) という仕組みを導入することを計画している。この仕組みを導入することができれば、教職員が現在と同じように、自宅にいながら、iPadにより、学生の出欠記録、情報共有など瞬時に行うことが可能となる。このシステムの導入費用については、現在、東京都テレワーク助成金に申し込みを行い、費用を賄いたいと考えている。これらシステムの導入により、今後、学生状況の把握と、教職員のテレワークの双方、同時に後押しができればと考えている。これらは、主に学生管理支援の側面か

ら日本語教育現場の ICT 改革を進めているものだが、次に、日本語教育そのものについて、コロナデフォルト時代の当校の取り組みについて触れる。

当校は、2017 年度から、西南女学院大学の横溝紳一郎教授、北海道大学の山田智久準教授などと、日本語教育における ICT 活用について、調査研究を行う協力校として、全国の日本語教育機関 3 校の内の 1 校となっている。このような縁で、同先生方を当校にお迎えして、日本語教育の ICT 化を進めるセミナー（右はその案内）やワークショップなども実施してきた。これら機会を利用しつつ、本校の日本語教育の ICT 化につき、以下のように、取り組んでいる。

まず、コロナデフォルトの日常では、上述のように、教職員は自宅からの授業配信とテレワーク、学生は自宅受講が増えることが予測される。そのため、最初に取り込んだのは、クラウドストレージを大いに活用することである。現在、用途に応じて、iCloud、Drop Box、One Drive、Google Drive の 4 種類を活用している。例えば、各クラスの写真や映像、音声などは iCloud、教員の日々の業務日報や進捗表の記録などは Drop Box、教員が教室で使用する共有教材は OneDrive という具合である。また、学校法人が無料で利用することのできる G Suite for Education を活用、学生の課題や宿題などはこの G Suite と連携する Google Drive を活用している。

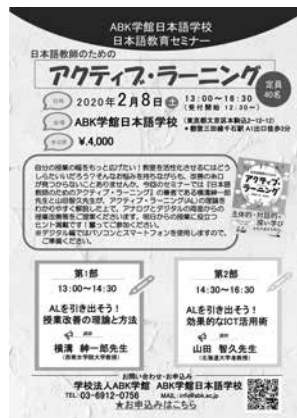
オンラインによる日本語教育では、現在、ZOOM business 版を利用。オンラインによる授業形式には、授業をこれまで通り、クラスでほぼそのまま実施し、その映像を流す形式と、オンライン用に加工して授業を実施する形式に分かれるだろう。当方では後者を主に採用している。そのため、オンラインの画面で見ることを想定した教材改定、例えば、パワーポイントの文字を大きくしたり、小さな画面でもアニメーションを見やすくしたりするなど、改良を重ねている。また、オンライ

ン授業で、自宅にいる学生に宿題やテストの実施がスムーズにできるよう、当校が開発する「TRY! 日本語能力試験 文法から伸ばす日本語」に準拠する各課ミニテストを Google Form で作成中である。学生に配信、回収、自動採点、成績管理システムへの記録など一連のプロセスを既に一部、実現している。

また、オンライン授業に付随し、ラインなどの SNS の利用も進めている。特に、各クラスで作るライングループに、クラス課題として、音声ファイルを配信、学生が各自録音したものを先生に返送してもらうという方法など、実験中である。

コロナ感染症を契機として、突如、コロナデフォルトとなった教育現場。そして、様々な ICT 改革への挑戦が問われ、大きな変化と混乱の最中。しかしながら、日本語教育現場は今、とてもエネルギーで、面白いことになってきているとも言えよう。

(終)



新型コロナウイルス感染症に関する 外国人留学生を対象とする支援制度について

国際教育支援事業部 福島正浩

日本では緊急事態宣言が解除されたとはいえ、新型コロナウイルス感染症拡大の状況は、特に都心において、予断を許さない状態が続いています。外国人留学生の皆様も生活に多大な影響、あるいは支障をきたしていることと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大のために学業の維持が困難になった外国人留学生が利用できる支援制度があります。

支援金関係等

特別定額給付金（国からの給付金）

対象：2020年4月27日時点で、住民基本台帳に記録されている方

給付金額：10万円

申込方法：オンラインまたは郵送

申込み期限：郵送方式の申請受付開始日から3か月以内

（詳細は各市区町村にお問い合わせください。）

コールセンターの電話番号：0120-260020

くわしくは、以下の総務省のウェブサイトをご覧ください。



<https://kyufukin.soumu.go.jp/>

※ウェブサイト右上の「LANGUAGE」ボタンから、日本語・英語・簡体中文・繁体中文・

韓国語・ベトナム語・フィリピン語・ポルトガル語・スペイン語・インドネシア語・タイ語で見ることができます。

また、以下の総務省のウェブサイトでは、日本語・英語・簡体中文・繁体中文・韓国語・ベトナム語・フィリピン語・ポルトガル語・スペイン語・インドネシア語・タイ語・ネパール語の案内もダウンロードすることができます。

<https://kyufukin.soumu.go.jp/ja-JP/download/>



[検索キーワード：特別定額給付金（とくべつていがくきゅうふきん）]

「学びの継続」のための『学生支援 緊急給付金』（アルバイト収入が 減って困っている学生への給付金）

対象：国公立大学・短期大学（専攻科、別科及び大学院を含む）、高等専門学校（第4・5学年及び専攻科に限る）、専門学校、日本語教育機関に在籍している、経済的な困難を抱えた学生

給付金額：

住民税非課税世帯の学生 20万円

上記以外の学生 10万円

※住民税非課税世帯…収入が少なくても住民税を払わなくてもよい世帯

申込み方法：学生からの申請を基に学校が

選考、JASSOへ推薦します。学内での締切は学校により異なります。所属の学校にご確認ください。

※外国人留学生については、JASSOの学習奨励費制度の要件（学業成績が優秀、出席率8割以上）等も踏まえ、学校が判断します。尚、JASSOへの推薦は2回に分けて行われます。学校からJASSOへの1次推薦は6月19日ですが、今後、2次推薦も予定されています。くわしくは以下の文部科学省のウェブサイトをご覧ください。英語のウェブサイトもあります。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/mext_00686.html



[検索キーワード：学生支援緊急給付金（がくせいしえんきんきゅうきゅうふきん）]

給付奨学金一家計急変－ （在留資格「留学」以外の方）

対象：新型コロナウイルス感染症に関係する影響を受けて家計が急変した方で、外国人の場合は在留資格が「法定特別永住者」「永住者」「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」「定住者」の方。大学（専攻科、別科をのぞく）、短期大学（別科をのぞく）、高等専門学校、専修学校に在籍している学生を対象としています。在留資格が「留学」「家族滞在」等の方は対象となりません。

給付金額：月額5,900円～75,800円（支援の区分により異なります。）

申込み方法：所属の学校にご確認ください。くわしくは、以下のJASSOのウェブサイト

をご覧ください。

https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kyufu/kakei_kyuhen/coronavirus.html



[検索キーワード：給付奨学金 家計急変（きゅうふしょうがくきん かけいきゅうへん）]

生活福祉資金の特例貸付（生活に困っている方へ国がお金を貸してくれる制度）

対象：新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減って生活に困っている方

申し込み先：市区町村の社会福祉協議会

●緊急小口資金（きんきゅうこぐちしきん）

対象：主に仕事が休みになり、生活費がなくて、すぐにお金が必要な世帯

貸付上限額：20万円まで（学校などの休みで仕事が終わった方、個人で仕事をしている方など特別な場合）。その他の方は10万円まで

据置期間：借りてから1年まで返さなくてもよいです。

償還期間：2年後までに返さなければなりません。※住民税非課税世帯（収入が少なく住民税を払わなくてもよい世帯）は、償還時に、まだ収入が少なかったら、返さなくてもよいです。

貸付利子・保証人：利子は0（ゼロ）です。保証人はいりません。

●総合支援資金（そうごうしえんしきん）

対象：主に仕事ができなくなり、生活ができるようになるまで、生活するのが大変な世帯

貸付上限額：世帯の人数が2人以上の場合、月20万円まで。1人の世帯の場合、月15万円まで

貸付期間：原則、3か月まで

据置期間：借りてから1年まで返さなくてもよいです。

償還期間：10年後までに返さなければなりません。※住民税非課税世帯（収入が少なく住民税を払わなくてもよい世帯）は、償還時に、まだ収入が少なかったら、返さなくてもよいです。

貸付利子・保証人：利子は0（ゼロ）です。保証人はいりません。

くわしくは、以下の厚生労働省のウェブサイトで、日本語、やさしい日本語、英語、韓国語、簡体中文、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語の案内を見ることができます。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/seikatsu-fukushi-shikin1/index.html



[検索キーワード：生活福祉資金貸付制度（せいかつふくししきんかしつけせいど）]

雇用調整助成金／緊急雇用安定助成金（事業主がアルバイトを休ませている方へお金を支給するために国から事業主へ給付される制度）

対象：新型コロナウイルス感染症の影響で事業活動縮小のため、アルバイトを休ませている事業主

内容：事業主（雇う側）からアルバイトを

休むよう言われた方（雇われる側）へ休業手当が支払われます。外国人も日本人と同じで、事業主は休業を命じられた方へ休業手当を支払う必要があります。国は働いている人を守るために会社などへこの助成金を給付しています。

申込み方法：休業を命じられた方が直接、事業主へ頼みます。事業主に言えない（言いたくない）場合は、労働局、労働基準監督署、ハローワークへ相談してください。

くわしくは、下記、厚生労働省のウェブサイトで、日本語、やさしい日本語、英語、簡体中文、繁体中文、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、ベトナム語、タイ語、カンボジア語、インドネシア語、ネパール語、モンゴル語、ミャンマー語の案内も見ることができます。

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000612098.pdf>



[検索キーワード：雇用調整助成金（こういうちょうせいじょせいきん）]

事業主（雇う側）に対して上記の助成金が給付されますが、実際のところ、休業させられた方（雇われた側）の中で、休業中に賃金を受け取ることができなかった中小企業で働いていた方々がいます。その方々を支援する雇用保険法の臨時特例法が6月12日の参議院本会議において全会一致で可決、成立しました。休業させられた方が、国へ直接申請し支援金を受け取れる制度で、6月18日現在、まだ施行されておられません。遅くとも7月末までには支給が始まる見通しです。

新型コロナウイルス感染症等の影響に対応するための雇用保険法の臨時特例等に関する法律案

対象：事業主に休業を命じられ、休業期間中に休業手当も受け取ることができなかった中小企業で働いていた方。尚、雇用保険に加入していなかった方も対象です。

内容：休業前賃金の80%（月額上限33万円）を休業実績に応じて支給されます。また、雇用保険の基本手当（いわゆる失業手当）についても給付日数を60日（一部30日）延長できます。

まだ公布されていないので法律案ですが、くわしくは、以下の厚生労働省のウェブページをご覧ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/000637670.pdf>



ビザ関係等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大等を受けた留学生への対応について

● 教育機関において引き続き教育を受ける場合

在留資格「留学」に係る在留期間更新許可を受け、引き続き教育を受ける活動を行なうことが可能となります。

- ・現在在籍している教育機関から転籍等して教育を受ける場合やこれまで在籍していた教育機関でない教育機関で教育を受

ける場合も更新可能となります。

- ・専ら日本語教育を受ける場合、通常2年間の在留が認められますが、これを超えて更新が可能となります。
- ・資格外活動許可を受けた場合、原則、週28時間以内のアルバイトが認められます。

● 教育を受ける活動を行わない場合

- ・2020年に教育機関を卒業した方が、帰国便の確保や本国国内の住居地への帰宅が困難であると認められる場合、在留資格「特定活動（6か月）」への在留資格変更許可が可能となります。さらに、働きたい場合は資格外活動許可を受けなくても、週28時間以内のアルバイトが認められます。
- ・2020年に教育機関を卒業した留学生で「留学」の在留資格があり、資格外活動の許可を受けている方が、帰国便の確保や本国国内の住居地への帰宅が困難であると認められる場合、卒業後であっても週28時間以内のアルバイトが認められます。

● 卒業後の就職が決定している場合

要件を満たせば、在留資格「技術・人文知識・国際業務」等への在留資格変更が可能となります。

● 卒業後も引き続き日本国内において就職活動がしたい場合（大学、高等専門学校、専修学校専門課程を卒業した留学生のみ）

在留資格「特定活動」に係る在留資格変更許可を受け、卒業から1年間就職活動を行なうことが可能となります。

- ・通常、就職活動を行なう場合、卒業から1年間の在留が認められますが、これを

超えて更新可能となります。

- ・資格外活動許可を受けた場合、原則、週28時間以内のアルバイトが認められます。

くわしくは、下記、出入国在留管理庁のウェブページをご覧ください。

<http://www.moj.go.jp/content/001318472.pdf>



帰国困難者に対する在留諸申請及び在留資格認定証明書交付申請の取扱いについて

● 帰国困難者に対する在留諸申請の取扱い

- ・「短期滞在」で日本にいる方は、「短期滞在（90日）」の期間更新が許可されます。
- ・「留学」の在留資格があり、日本で働きたい方は、「特定活動（6か月・週28時間以内のアルバイト可）」への在留資格変更が許可されます。尚、これは2020年1月1日以降に教育機関を卒業（修了）した方のみです。また、「短期滞在」や次に述べる「特定活動（6か月・就労不可）」が許可された方もあてはまります。
- ・その他の在留資格で日本にいる方（上記「留学」の在留資格があり、働きたくない方も含む）は、「特定活動（6か月・就労不可）」への在留資格変更が許可されます。

● 在留資格認定証明書交付申請の取扱い

- ・通常は「3か月間」有効な在留資格認定証明書を、当面の間、「6か月間」有効なものとして取り扱われます。
- ・申請中だが、活動開始時期を変更したい場合、受入れ機関作成の理由書のみが有

効で、それをもって審査されます。

- ・再入国許可により出国中で在留期間満了日を過ぎてしまった方など、改めて在留資格認定証明書交付申請する場合、申請書と受入れ機関作成の理由書のみが有効で、それらをもって審査されます。

● 在留申請中に再入国許可により出国中の方への取扱い

再入国許可（みなし再入国許可を含む。）により出国中である方が、出国前に在留資格変更許可申請、在留期間更新許可申請又は永住許可申請を行なっているが、新型コロナウイルス感染症の影響により再入国できないときは、日本にいる親族か受入れ機関の職員等が、その申請を許可された在留カードを申請者本人に代わって受け取ることが認められ、その出国中の方が再入国許可による上陸申請を行なうことができるようになります。

くわしくは、下記、出入国在留管理庁のウェブページをご覧ください。

<http://www.moj.go.jp/content/001315948.pdf>



申請受付期間及び申請に係る審査結果の受領（在留カードの交付等）期間の延長について

● 申請受付期間の延長

在留申請窓口申請したい方々がたくさん集まってしまうのを避けるため、3月から7月中旬に在留期間満了日をむかえる方（「特定活動（出国準備期間）」で在留する方はあてはまりません。）からの在留資格変更許可申

請及び在留期間更新許可申請等については、在留期間満了日から3か月後まで申請ができます。尚、在留期間満了日以降は、再入国許可又はみなし再入国許可により出国することはできません。

● 審査結果の受領期間の延長

在留資格変更許可申請及び在留期間更新許可申請を既に行なっている在留カードを持っている方（中長期在留者）について、審査結果の受領（在留カードの交付等）は、通常、在留期間満了日から2か月後までですが、この期間が3か月延長されます。尚、空港・海港では、在留諸申請の受付及び処分は行なっていないため、本来の在留期限等を過ぎている方が出国する場合は、あらかじめお住まいを管轄する地方出入国在留

管理官署において、申請及び許可を受ける必要があります。

くわしくは、下記、出入国在留管理庁のウェブページご覧ください。

<http://www.moj.go.jp/content/001315947.pdf>



★日頃から、あなたが所属している学校や住んでいる自治体、各省庁からの最新情報を定期的にチェックしてください。あなたがその制度の申し込み資格に該当するかどうか分からなくても、まずは積極的に問い合わせ、相談してみましょう。

（終）

【出典、参考サイト】

- ・ 出入国在留管理庁「外国人在留総合インフォメーションセンター」
電話：0570-013904
<http://www.immi-moj.go.jp/info/>
- ・ 文部科学省「日本に留学中の外国人学生の皆さんへ＜外国人留学生向けの利用可能な制度一覧＞」
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1405561_00006.htm
- ・ 法務省「留学生及び日本語教育機関に係る取扱い」
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri01_00157.html
- ・ 厚生労働省「外国人の皆さんへ（新型コロナウイルス感染症に関する情報）」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/jigyounushi/page11_00001.html
- ・ 出入国在留管理庁「外国人生活支援ポータルサイト」
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri10_00055.html

留学生の就活

オンライン合同企業説明会 開催される

コロナ禍で就職活動が思うようにできなくなってしまった留学生が多い中、外国人留学生向けの合同企業説明会「JOB 博」を開催する(株)パソナが、同社留学生向けとしては初となるオンラインによる合同企業説明会「JOB 博 大阪 Online」を去る4月18日(土)に開催した。本来実会場で行う予定だったこのイベントをオンラインで行うことでどのようなメリット、そしてご苦労があったのか。ソーシャルディスタンス時代の留学生の就活はどう変わるのか。イベントを主催した同社グローバル事業本部 部長の南部真希也さん(写真上)と副事業部長の李妍暻さん(写真下)にお話をうかがった。



編集部： 留学生向けのオンライン合同企業説明会（WEBセミナー）というのは、今回が初の試みとのことですが、実際の説明会に参加予定だった企業すべてがオンラインに移行されたのでしょうか。

パソナ： いいえ、本来の出展予定は13社だったのですが、実際出展したのは9社でした。これは新型コロナの問題で採用活動自体がストップしてしまい、辞退されたところもありますし、オンラインは経験がなく不安ということで、今回はお断りするところもありました。参加いただいた9社についても、ほとんどが初めてのオンライン説明会だったと認識しております。

編集部： 今回オンラインで行うことはいつごろから決めていたのでしょうか。

パソナ： 政府の緊急事態宣言以前から決めていました。3月半ばの東京イベントがキャンセルになってしまったのですが、4月のイベントは中止するわけにはいかない、なんとかやろうということで、WEBセミナーの準備を進めていました。

編集部： 初めてオンラインで行うにあたっ



普段の JOB 博の様子

て苦労されたことはなんでしょう。

パソナ： まず私たち自身がWEBセミナーを行うのは初めてだったということです。アプリケーションにはZOOMを使ったのですが、ウェビナー（Webinar=Web+Seminarの造語）というシステムの知識がまったくなかったので、どう使うのかということをメンバーが勉強しながら、そしてそれを出展するお客様1社1社にインストールしていききました。そこで予想以上の労力がかかったということと、企業様もそういうシステムに慣れていないところが多かったので、一から練習していただきながら慣れてもらうというのが今回大変だったところです。

編集部： 今回実際の会場は大阪でしたが、WEB開催だと参加者はどこからでも参加できるということですね。

パソナ： その点が今回は非常に良かったと思います。大阪での開催となるとやはり参加者は関西圏や九州地域からとなりますから、お会い出来る学生さんの数に

も限界があったのですが、今回は関東圏や信越圏など色々な地域の大学の学生さんに参加していただきました。また、新型コロナウイルスの影響で母国に帰国されている学生さんの中にはどうやって日本での就活をするのかと不安を感じている人も多かったのですが、WEB開催ができたことによって、帰国されている方、海外の大学を卒業してその国にいらっしゃる方にも参加いただけました。

編集部： 参加者数については、実会場開催に比べてどうだったのでしょうか。

パソナ： 今回エントリー者数は700名ほどで、当日1社でも説明会に参加された方は370名でした。延べ人数では970名ほどですから、だいたいお一人当たり3社のセミナーに参加していただいたということになります。昨年度大阪で行ったセミナーは約13社の出展企業に対して実際に来場されたのが350人でしたから、今回とほぼ同数ということになりますが、今回は企業数が減少していますので、学生さんの参加率は上がったということになります。



PCの画面。左チャットウィンドウに表示された学生からの質問に答える担当者



メモをとりながら自室で担当者の話を熱心に
聞く留学生

編集部： そのほか WEB 開催で良かった部分というのをあげていただけますか。

パソナ： やはり1社あたりの参加者数が増えたということです。通常ですと、企業の知名度が低いとか人気のない業種といった場合、学生さんがあまりブースに来てくれないということもありますが、今回は一番少なかった企業様でも55名の参加者を集めました。また、逆に人気のある企業様の場合、ブースで説明を聞ける人数は1日80名～100名と限界があるため、説明を受けられない、よく見えないという方が出てしまうのですが、WEBの場合はそういった心配はなく、最も多かった企業様で190名の参加者を迎えることができました。つまり1社あたりの参加者数、企業様が得られる学生さんの情報数は圧倒的に増えました。ある旅行業のお客様によると、通常よりかなり多くの学生さんが説明会に参加してくれて、翌日には10名以上からエントリーがあったというお話をうかがっています。

また、もう一つの取り組みとして、このセミナーの模様を録画した動画を、セミナー終了後の1週間WEB上に公開しました。つまり当日参加できなかった方にも同じ内容を録画でお見せすることができたので、後日その映像を見てエントリーしたという学生さんもいらっしゃいました。

編集部： 参加をした学生からはどのような声がありましたか。

パソナ： 学生さんからすると、まず移動費がかからないのでありがたいということがありました。またWEBで顔を出す必要がないので気軽に参加できる、そして質問もしやすかったという声がありました。ブースですと周りの視線もありますから、自分の日本語力などを気にして質問ができないこともあるのですが、今回はチャットで、しかも英語でも質問ができますし、匿名でも質問ができますから、なんでも聞けて良かったということです。

編集部： 参加者の人数はわかるけれど、顔が見えないというのは企業側からするとどうなのでしょう。

パソナ： 対面で人柄とか雰囲気などを見たいというのが、特にサービス系の企業様に多いのですが、今回は基本的に参加者の顔は出さないということで行いましたので、そういった意味では説明会を聞いている学生さんがどんな人なのかまったく見えなかったというのが、企業様が感じる一つの

デメリットかなと思います。実は説明会の後、1時間くらいの座談会を希望者に対してやられた企業様もあり、そこでは学生さんにも全員顔を出してもらいました。

編集部： デメリットはあるものの、今回のようなシステムを使ったオンライン説明会は非常に有意義なものであると思われますが、今後の開催予定についてはいかがでしょう。

パソナ： このWEBセミナーは5月に「JOB博 東京 Online」が開催され7月には理系人材を対象にした座談会形式で行う予定なのですが、今回実際にやってみて、凄くフレキシブルな対応ができるという感想を持ちました。実際のイベントというのは20社、30社の参加など、ある程度の規模がないと開催できないのですが、WEB開催の場合は極端な話4〜5社くらいから開催できますから、企業様のご都合に合わせてその都度開催ができるのではないかと考えています。

編集部： 新しい形の説明会で留学生と企業の素晴らしい出会いが増えることを期待しています。本日は貴重なお話をありがとうございました。

📌 リクルートスーツに身を包み、他の就活生の熱気を感じながら企業の担当者と対面する会場での説明会と比べ、寝巻き姿でも参加できてしまうWEBセミナーは緊張感やモチベーションを高めづらいというマイナス点があるかもしれない。しかし、ネット環境さえあればどこからでも参加できること、常に特等席で担当者の話が聞け、質問も気軽に行えること等メリットは多い。企業側も多く of 学生に話を聞いてもらえるチャンスが広がるわけで、特に留学生のようなグローバル人材を募集する手段として、WEBセミナーは多くの可能性を秘めているはずだ。このコロナ禍とテクノロジーの進化が、より多くの留学生と企業を結びつけるチャンスを広げてくれるかも知れない。

JOB 博 今後の開催予定

- JOB 博 Science and Technology Online 2020 年 7 月 4 日（土）（Web セミナー）
- JOB 博 Online SUMMER 2020 年 8 月 1 日（土）（Web セミナー）
- JOB 博 TOKYO Autumn 2020 年 11 月 21 日（土）
- JOB 博 Online Autumn 2020 年 11 月 28 日（土）（Web セミナー）

株式会社パソナ グローバル事業本部

東京都千代田区大手町 2-6-2

TEL 03-6734-1270 E-mail globaljob@pasona.co.jp

URL <https://job-haku.com>



モンゴルの若者はいま、がんばっています

ムンフートル プレブスレン ～モンゴル

(Munkhtuul Purevsuren)

東京大学大学院医学系研究科 内科学専攻循環器内科（博士課程）

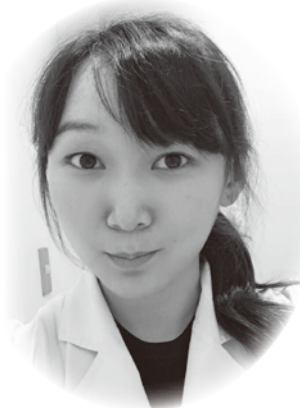
小学生時代の日本留学

私が通っていた23番小学校は外国語を学べるのが特徴の学校で、2年生になると5つの言語の中から一つを選んで勉強を始めるんです。私は、当時伯母が北海道大学に留学していたこともあり、関心のあった日本語を学びました。そして2005年、5年生のときに高知市の小高坂小学校に2か月ほど留学したのですが、日本人家庭にホームステイしたこともあり、短い間でしたが日本語力はすごく伸びたと感じました。

私のホームステイ先はお父さんお母さん、そしてお兄さんと妹の4人家族でした。初めてモンゴルの家族のもとを離れて、しかも外国に来たわけですから、本当ならすごく不安だったと思うのですが、ご家族みんながとても温かくて良くして

くれて、本当に毎日楽しくその2か月間を過ごすことが出来ました。

特にお父さんの言った言葉は子供心に深く刻まれました。



「誰かと友達になりたかったらその人の良いところだけを見るようにすること。そうすれば必ず仲良くなれるし交流も続くよ」

それ以来、今でも誰かと接するときには相手の良いところを探して見るように心がけて

います。

また下の女の子は2歳年下で同じ小学校に通っていたのですが、帰国後もずっと手紙やメールで交流が続いていて、2013年には彼女がモンゴルまで遊びに来てくれました。彼女は今年結婚して北海道に住んでいます。今も仲良しで本当の姉妹のような関係になっています。

日本の生活では家族みんなが同じお湯を使い回すお風呂の入り方や、当時モンゴルにはなかった学校給食、放課後に生徒みんなでする掃除など、モンゴルとは違う日本の文化がとても新鮮で面白かったですね。

ですから、帰国後日本語の勉強にはさらに力が入りました。中学校時代には日本語オリンピックという日本語の能力を競う全国大会に参加して、初出場の1年生の時は3位に、2年生では2位、最後の3年生で1



高校時代。様々な学問のオリンピックでとったメダルの数々



医学部の同期生と（前列左3人目）。
モンゴルの医学部は女性の方が多いんです！

位になったんです（笑）。ほかにもスピーチコンテストなど、日本語関係の大会には積極的に参加していました。

だから日本への留学というのはずっと考えていたのですが、私の目標は医師になることでしたから、まずはモンゴルで大学を卒業して医師免許をとってから日本に留学しようと思ったんです。

医師を目指した理由

漠然とですが医師に興味を持ったのは子供の頃です。私は医師だった祖父母と暮らしていたのですが、既に現役を退いていた祖母はたまに具合が悪い時に尋ねてくる近所の人たちを家で診ていたんですね。それを見ていて面白いなあと考えていたことがきっかけだと思います。

だから中学、高校で将来どんな職業になりたいかと考えた時、医師以外を思い浮かべることはありませんでした。

そして進学したモンゴル国立医科大学医学部では、本当に勉強に明け暮れました。国家試験の勉強も友達の家みんな集まって毎日夜遅くまでするんです。みんな仲が良かったのですごく面白かったですね。

私は本当に勉強が大好きで、大学時代は学術関係のサークルにいろいろと参加して、チームで様々な学問のオリンピックに参加していました。医学系のオリンピックでは国内大会で優勝して、タイで開催された国際大会に参加したこともあります。

心臓に惹かれて

大学に入って人間の体のこ

とを学びはじめてから、ずっと心臓は面白いなあと感じていました。きれいで、その働きはすごく重要で、心臓がなければ人は生きていけない。そして人が死ぬまで休むことなく動き続けます。なんて素晴らしい臓器なんだろうって。

だから大学では心臓の勉強をするクラブにも入って、そのメンバーの特権なのですが、循環器内科の先生の話の聞いたり、先生に付いて実際に患者さんを診たりもしました。

そうした経験の中でわかったのは、モンゴルでは心不全の専門医が少ないということでした。特に私がいま学んでいる肺高血圧症は、世界的にもあまりその原因がわかっていない病気で、私はぜひこの分野を専門にしたいと思いました。日本の東大にはその分野で有名な波多野将先生がいらっしゃる。



大学の仲間とタイで開かれた医学系オリンピックの国際大会に参加（右2人目）



ホームステイ先の妹さんがモンゴルに遊びに来てくれて7年ぶりの再会！

ぜひ東大に留学したいと考えたんです。

そして、大学を卒業し国家試験にも無事合格すると、すぐ先生に留学希望のメールを出しました。そして先生との面談を経て2017年の4月、東大の研究生になり、翌年の4月に正規生となることができました。そのための試験が10月にあったのですが、それは循環器系の内科医向けに作られた問題で、それまでの人生で一番難しい試験でした。

思い描いた通りの研究生生活

大学院では臨床研究を行っています。具体的には患者さんのデータを集めて、そこから新しいものを発見すること。例えば心臓MRIの画像をみると全身性強皮症の患者が肺高血圧症になりやすいというこ

とがわかるのですが、ではどの段階で心臓が悪くなるのか、どの段階で検査をすれば早く診断ができて治療がうまくいくのか、そういったことを研究しています。

また先生の外来に付いて実際の患者さんの心臓の音を聞いたり、診察方法を観察したり、病院のカンファレンスにも参加して難しい症例についてどのように治療をしたらいいか、どのように患者さんと話しをしたらいいのかといったことを先生方のお話の中から学んでいます。

波多野先生はとても厳しい方ですが、本当に親身に指導してくれますし、先生から与えられた教材をしっかりと学習すれば必ず次の段階に上がることが出来る。それはやりがいがある。それは面白いです。

ですから、今の研究生生活は自

分が思い描いたもので不満がないどころか感謝しています。先生からは本を読んでなかったことを怒られたり、外来の診察時に「この原因はなにか」と聞かれて答えに窮してしまうことも多いのですが、いつか全てに答えられるようになりたいと思っています。

東大で学べることのメリット

モンゴルの医科大学はけっこう厳しくて、夏休みもなく病院での実習を行うのですが、いま、東大病院の診察・治療を見ていて違いを感じるの、患者さんへの対応がすごく丁寧で優しいということ。そして一人一人の患者さんの鑑別をととても細かくしっかりやっているということです。先生方も毎日たくさんの論文を読んで勉強されている。治療の予後がすご



大好きなおじいちゃん、おばあちゃんと



服部国際奨学財団の奨学生たちと（前列右2人目）。
留学生生活を支えてくださる神林留学生奨学会、服部
国際奨学財団の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです

く良いのはそのためだと思うのですが、学問だけでなくそういった医療従事者としての姿勢のようなものも吸収したいと思っています。

またモンゴルではこんな症例の患者さんについて調べたいと思っても、患者数が少なく実際その疾患の患者さんと出会う可能性は低いのですが、東大だといろいろな患者さん、珍しい症例の患者さんも診ることが出来ます。本当に教科書にある通りの症例の方がいらっしゃるし、もっと珍しい症例の方もいらっしゃる。本当に貴重な経験を積ませてもらっています。

この秋にある日本語診療能力調査に合格すれば来年医師国家試験が受けられます。今はそれが一番の楽しみになっています。肺高血圧症の診断を行うには心臓カテーテルをする必要が

あるのですが、私は日本の医師免許がありませんから、今は見学することしか出来ません。もし試験に合格すれば、今度はそれを自分で行うことが出来ますから、それも楽しみです。

また、波多野先生は今年肺高血圧症に関する本を書かれたのですが、その本をモンゴル語に翻訳する作業も行っています。モンゴル語は専門用語が難しく苦勞していますが、翻訳していると内容への理解が深まって自分のものになっています。これって勉強方法としてはすごく良いんじゃないかなあと喜んでます（笑）。

将来のこと

私は大学院卒業後、日本で医師としての経験を積んだ後、帰国して自分の病院を持ち、モンゴルの心不全の患者さん

たちの力になりたいと思っています。そして将来は医療という分野を超えて国に貢献できるような人になりたい。そう思うのは政治家でもあった祖父の影響で、祖父の生きる姿からは「人は人のために仕事をしなければならない」ということを学びました。私は人のために生きて行く中で、母国を一段階上のレベルに引き上げる手伝いができればいいなと思っています。

モンゴルは今、若者ががんばっています。たくさんの若者が国を良くしたいと、経済的に大変な中、海外に留学しています。だから20年後のモンゴルはすごく楽しみです。その時は私たちが国をリードするわけで、しっかりリードできる人材になるために、今は日本でがんばるだけがんばって勉強したいと思っています。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

水谷 光一

③⑥ 卒業生タンヤマイさんの日本留学

今回は TNI を卒業後に東北大学大学院に留学、見事博士号を取得後、日本企業で経験を積み、このたび教員として TNI に戻ってきてくれたタンヤマイ・ティノータイ（愛称カズキ）さんのインタビューをお届けする。

マヒドン大学から TNI へ

私は王様が創設したラットプラチャー・スクール（中高一貫教育）の出身で、高校のときロボコン（ロボット競技）の指導を熱心にされていたある先生と出会いました。先生は私に TNI への進学を勧めたため TNI については意識していましたが、もともと興味があった理科系でマヒドン大学の食品技術に関係したコースに合格したため、そちらに進学しました。そ

して1年間、マヒドン大学で勉強しましたが、専門性を社会に生かすためにはマネジメントの勉強も必要だと感じ、高校の同級生であるピチットさん（工業経営学コース（IM）一期生で、2011年から TNI 卒業後、経営学部講師）の勧めもあって、TNI に一年遅れで入学しました。

TNI の勉強で特に好きだったのは TPS（Toyota Production System：トヨタ生産方



東北大学で博士学位を取得

式）など実際の産業に活かせる技術でした。

4年生の前期には DENSIO International 社でインターンシップをして、これは特に私に大きな影響を与えました。実際に TPS など大学で学んだ知識が大いに役立っただけでなく、会社では DENSIO 社員とまったく同様に扱っていただき、職場の効率化・改善などの提案をおこない、それらの提案のいくつかは実際会社に採用されました。

今でもインターンシップの成果報告を大切にしています。今見ても、よくがんばって、よくできたレポートだったと思います（笑）。

東北大学 IPLA から大学院入学

私は4年生に進学するまでにはほとんど必要な単位を取得していたので、4年の前期が終わった頃、東北大学の1年間留学プログラム“IPLA（International Program in Liberal Arts）”に申し込みました。

仙台は2年生の時、東北工業大学に2か月間留学したことがあり、大学の谷口先生とご家族にお世話になるなど思いで深い土地で、ぜひもう一度留学したいと思っていました。

結局、仙台には短期留学時代から博士課程卒業まで6年間住み続け（博士課程の1年間はドイツ留学）今では心の故郷になっています。

IPLAは、東北大学経済学部が世界中のエリート学生を集めて行う1年間の短期留学プログラムで、学生は約50人、アジアからの留学生は私（タイ人）とベトナム人、そして中国人の3人だけで、他は西洋人で英語はみなネイティブレベルでした。私は経済学の基礎は勉強しましたが専門ではなかったため、英語での授業も大変で最初の2週間はタイに帰りたいかったです。しかしすぐに英語にも経済学の勉強にも慣れて、日増しに学校に通うのが楽しくなっていました。

そしてこの1年間の留学の間に大学院に新しいコース（International Graduate



幼なじみで TNI の先輩講師でもあるピット先生と

Program for Advanced Science=IGPAS）ができることを知り、大学院も東北大に進学したいと思うようになりました。この新しいコースは新設の文科省によるプログラムで、東北大を含めて5つの大学に特別に設置されたものでした。

IGPASは医療、工学、農業など、将来有望な4つの分野について英語で教育するもので、私は日本独自の考え方である「第六次産業（Six Industry）」について研究したいと思い、農学研究科に研究計画書を提出しました。

私は学習したことを社会で生かせることにこだわりました。そのため私の研究計画書はアカデミックなものではなかったかもしれませんが、タイの農業のリソースを生かして社会に貢献する、ということを研究したいと思いました。

当時は東日本大震災の後だったので、宮城県や地元大学主催の復興プログラムに参加して様々な方々と活動をとともにできる機会があり、産業だけに着眼した復興計画で



指導教官と研究室の仲間たち（右端がご主人）

はなく、経営学の知識をミックスさせた復興計画を勉強するいいチャンスになりました。そして修士課程修了後、そのまま博士課程も東北大学で学ぼうと思いました。

産業の中のものづくりと技術

指導教官の専門が自分の研究テーマと合わなくて泣く泣く論文の内容を先生に合わせたという話を聞きますが、私の場合はそうしたことはありませんでした。

私の指導教官の専門は“産業の中のものづくりと技術”というものでした。そうしたテーマの中で、例えば自動車産業については誰もがすぐに真似できるものではないので、研究の対象になりがちですが、食品産業の製品開発はすぐ真似されて類似品が出るため、研究対象としては人気がないとのことでした。先生はそうした分野にあえて取り組もうとした私を応援してくださいました。

私の研究テーマは「多国籍企業の農業・食品産業のローライゼーション・グローバルライゼーションの展開」についてでした。

コンサルタントとして企業を救う

博士号を取得したあと、知人から東京にある株式会社エスネットワークス（ES Networks Co., Ltd.）というコンサルタント会社を紹介してもらいました。東京で面接をしたのですが、すぐにTNIで勉強した知識が生かせる業務だと分かりました。

しかもその会社の方と話している中で、私は自分がとても素直でいられることを感じました。そして会社の方も素の私を気に入ってもらえたようで、この会社で働くことが決まりました。勤務地は東京で、久しぶりにTNIで習った日本語を使いました。業務は顧客企業の決算や財務状況を見て、経営に関するアドバイスをすることで、特に財務状況の悪い会社には倒産に至らないよう「再生」のためのアドバイスをを行いました。

もちろん同僚は私より会計業務の知識があるわけですが、会計の知識だけでは事業を再生できず、今まで勉強したIM、経営・

人生の師と仰ぐ東北工業大学の谷口先生と



経済学の知識がこの会社で十分に生かされました。

また会社では日本語を使って同僚と会議をしたり、お客様へのプレゼンテーションなどをしましたが、こうしたシーンでは TNI での勉強がとても役立ちました。

帰国、そして TNI の講師に

この会社をとてとても気に入っていたのですが、考えてみれば東北大学 IPLA から数えて、もう 10 年近くを日本で過ごしていました。そして、そろそろタイに帰らなければならないと思っていたところに、知り合いからタイでの仕事の誘いがあり、帰国する事に決めました。

ふり返って、日本で一番良かったことをあげると、結婚したことです（笑）。相手は東北大学の工学部で一緒だった日本人で、学部時代に知り合い、交際をしていました。私がタイに帰国する決心をしたと話すと、

彼もタイで仕事を探すことにしてくれました。現在夫はタイの商社で技術営業マンとして働いています。

帰国後は以前から考えていた TNI にも関わりたいと思っていたのですが、ピチットさんの紹介で、毎週末土日に TNI で社会人コースを教えることになり、今その準備をしています。おそらくは短大を卒業した人に TNI で 2 年ほど勉強してもらい学士をとってもらう「編入コース*」で教えることになると思います。（※「編入コース」の詳細は未定です：筆者）

TNI に入学して本当に良かったです。マヒドン大学でそのまま勉強していたら今は医療技術関係の会社で働いていたと思います。TNI は私の持てるもの、ポテンシャルを最大限に引き出してくれました。そして今、改めて TNI のお手伝いができるようになって本当に誇らしいです。

筆者は入学時からタンヤマイさんを知っているが、TNI では IM コースという工場の生産管理に特化したコースを修了しており、本来なら卒業後、日系企業の製造業で活躍しているところだろう。しかし彼女は日本の国立大学に（日本の）国費留学生として留学し博士号を取得。さらにコンサルタントとして日本で活躍し、TNI に戻って先生になったという、そんなサクセスストーリーを他には知らない。

高校は理科系進学コースで本来もっと技術に特化したコースを卒業していても良かったが、彼女は「技術や工学知識、理学知識の勉強のみしても実社会で役立たせることは難しい。経営学や生産システムについて勉強してこそ、その専門性を社会のために役立たせることができる。」という考えの下これまで実践してきた。その姿勢からは彼女の信念を強く感じた。

水谷光一（みずたにこういち） 2007 年の TNI（泰日工業大学）設立時から職員として参加。2020 年 2 月から同大学 Student Admission Center 勤務



奨学金情報

■ 公益財団法人佐藤陽国際奨学財団 私費留学奨学生 募集要項（秋募集）

対象：ASEAN 諸国及び南西アジアから日本の大学に留学している学生で、当財団の条件を満たす者を対象とします。募集要項と応募方法に

ついては当財団のホームページをご覧ください。

給付金額：<学部学生>月額 15 万円、<大学院生>月額 18 万円（他に授業料補助制度、学会出席補助金制度あり）

給付期間：① 2020 年 10 月から 2022 年 9 月までの 2 年間 ② 2021 年 4 月から 2023

年 3 月までの 2 年間（ただし、採用時の課程修了までの標準修業年限とする。）

募集人数：約 15 名

応募方法：実施団体ホームページを参照

実施団体連絡先：〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-1 公益財団法人佐藤陽国際奨学財団事務局 ☎ 03-5487-2775

E-Mail sisf@sato-global.com

URL <http://www.sisf.or.jp>

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2020 年 1 月

賛助会員

(1 口)

雅留宮 久麿／澄子 野田市

正会員

(1 口)

赤松 茂利 小田原市
井上 駿 さいたま市
出澤 正徳 鶴ヶ島市
堀 香奈美 横浜市
山田 裕子 三鷹市
工藤 博司 酒田市
北林 保之 中川郡

北星学園大学
(株) デリー
長谷川 崇之

札幌市
文京区
さいたま市

2020 年 2 月

正会員

(1 口)

中原 和夫 那覇市
小田中 聰樹 仙台市
松崎 松平 世田谷
浜崎 長壽／和子 堺市

ご寄附

中原 和夫 那覇市
岡崎 道子 池田市
栗原 静子 戸田市

2020 年 3 月

正会員

(1 口)

山海 保 葛飾区
田中 武雄／多美子 水戸市
中島 明彦／絢子 横浜市
石渡 真紀 帯広市
田井 良知 吉川市
郭 南燕 奈良市
WINGSANG WONG 新潟市
東京都市大学 横浜市
久保 哲也 北区
伊藤 源之 東久留米市

ご寄附

河合 秀高 横浜市
北 マツ 印旛郡
西嶋 勝彦 千代田区

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 白石勝己

設 立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的相和と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間2千円（＋税）でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

『アジアの友』発行回数変更のお知らせ

諸般の事情につき、2019年度より本誌『アジアの友』は昨年度までの年6回発行から、年4回の発行に変更をさせていただきます。定価は従来通り1部500円（税別）です。発行回数の変更に伴い、ご迷惑をおかけすることになりますが、今後とも引き続きご高配賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

後 記

昨年大学院を卒業しABKを退寮したベトナムのGさんが結婚したという。お相手はいわゆる婚活サイトで知り合ったアメリカ人青年で、彼も元日本留学生だ。日本人のパートナーを探してサイトに登録したが運命の人はベトナム人だった。以来SNSでチャットを続けていたが、一度彼が来日、二人で日本国内を旅行して気持ちを確かめ合った。日本で決まっていた就職を辞退して結婚するというGさんに、思わず「本当にいいの？」と聞いてしまったが、彼女に迷いはなかった。良いお母さんになることが彼女の人生目標だったから、さもありなんだ。そういえばもともと以前、バングラデシュのSさんは博士号の取得が決まるとすぐに「これから結婚してきます！」と言って帰国をした。お母さんが探した複数の女性とお見合いをするとかで、もう書類選考で4人に絞ったと嬉しそうに写真を見せてくれた。それからしばらくして本当に奥様を連れて戻ってきた。そんなに簡単に決めて…と思う反面、人生のやるべきこと？を純真に次々クリアしていく彼らを見ていると爽快にも感じる。そして羨ましい。とはいえ人生は山あり谷あり。乗り越えて幸せになって欲しい。(K)

アジアの友 2020年4-6月号

2020年6月10日発行（通刊第542号）

年間購読（送料共）2,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 白石勝己

編集 アジアの友編集部

発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13（☎113-8642）

電話番号：03-3946-4121

ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754

E-mail：tomo@abk.or.jp

ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by THE ASIANSTUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email：tomo@abk.or.jp

Home Page：http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話にてお願いいたします。



学校法人 ABK 学館

ABK 学館日本語学校

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12

電話番号 +81-3-6912-0756

FAX +81-3-6912-0757

URL <http://abk.ac.jp>

E-mail info@abk.ac.jp



ABK COLLEGE

2013年4月に完成した新校舎

新築3階建校舎。最新の耐震設計です。

- 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校（英語名称：ABK COLLEGE）は1957年に設立された公益財団法人アジア学生文化協会が寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年4月に開校しました。当校には姉妹校のABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会）もあり各種協力を行います。



授業風景イメージ



寮の一例



ABK日本語コース

ABK COLLEGE

ABK COLLEGE（学校法人ABK学館ABK学館日本語学校） 東京都認可日本語課程（大学院・専門学校・就職・文化体験等）			
	4月入学 1年コース	10月入学 1年半コース	4月入学 2年コース
授業時間	980時間	1,290時間	1,720時間
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円		
授業料 （施設・教材費含む）	620,000円	930,000円	1,240,000円
姉妹校 ABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会） 文部科学省指定大学進学準備教育課程			
	4月入学 1年コース	10月入学 1.5年コース	
授業時間	1,086時間	1,586時間	
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円（大学進学日本語課程） 95,000円（大学進学準備課程）		
授業料 （施設・教材費含む）	720,000円	1,080,000円	
所在地：〒113-0042 東京都文京区本駒込2-12-12 電話：+81-3-3940-2171 FAX：+81-3-3940-7599		Eメール： info@abk.or.jp info@abk.or.jp	

